

始



明治十七年十二月發兌 不發賣

愛知縣勸業雜誌 第七號

農商課印行

秋田縣農業雜誌

昭和十一年十一月

發行所

目次

本縣布達

褒賞

第三回内國繪畫共進會褒賞人名

本縣博物館開館景况

注意

蠶病試驗

ラニ草報告抄譯

煙草栽培製造報告

三田育種場(苗)交換規則

油ヲ以テ波瀾ヲ鎮靜スルノ説

馬ノ諸害ヲ除ク



本縣秋期農談會要話

蕎麥貯蓄法

芋苗移植

麥稈打紐ノ景況

郵便物及船舶ノ盛衰

公私立銀行利息比較表

名古屋區金融ノ景況

名古屋區物價表

米麥雜穀農家每戶收穫高比例表

愛知縣勸業雜誌第七号

甲第八十一号

爆發藥(ダイナマイト)ヲ用ユル漁法ハ危險ニ涉ルノミナラ
ス水産蕃殖上妨害不尠候ニ付自今禁止候條此旨布達候事

明治十六年十月三十日

愛知縣令國貞廉平

甲第一號

營業上ニ關スル規約ヲ定ムルカ爲營業組合ヲ設立セント
欲スル片ハ別紙准則ニ據リ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受ク

可シ

但營業組合規約従前經伺ノ分モ准則ニ據リ認可ヲ受ク
可シ

右布達候事

明治十七年一月廿五日

愛知縣令國貞廉平

營業組合設立准則

第一條 營業者相親睦シテ營業ノ進歩ヲ圖リ世間ノ信用
ヲ堅クセンカ爲メ其規約ヲ定メ營業組合ヲ設立スルヲ
得

第二條 組合中頭取幹事ヲ置其撰擧法ハ組合中ヨリ投票
ヲ以テ公撰シ其姓名ハ戸長及郡區長ヲ經テ縣廳へ届出
ヘシ

第三條 頭取幹事ノ任期及改撰其他組合申合規約等ハ頭
取ヨリ戸長及郡區長ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 組合中ニハ共同組タルノ証ヲ頭取ヨリ配當スル
モノトス

但該証ハ縣廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第五條 組合中ノ姓名ハ名簿ヲ作り戸長及ヒ郡區長ヲ經
テ縣廳ニ差出スヘシ

第六條 組合申合規約設置ノ後新ニ加入ヲ乞フ者又ハ組
合中ノ者轉居轉業或死亡家督相續等ハ頭取ヨリ其都

度戸長及郡區長ヲ經テ縣廳ニ届出ツ可シ

第七條 郡區所轄ヲ異ニスト雖モ地方接近等ニヨリ營業

便宜ノ場合ニ於テハ聯絡シテ組合ヲ設クルモ妨ケナシ

第八條 組合ノ名義ヲ毀傷シ世間ノ信用ヲ缺クカ如キ處

爲アル者ハ頭取ニ於テ厚ク之ヲ説諭シ尙悔悟セサル片

ハ衆議ニヨリ之ヲ除名スルヲ得此場合ニ於テハ戸長及

郡區長ヲ經テ縣廳ニ届出可シ

第九條 營業上ノ利害得失ヲ講究商議セシカ爲メ其組合

即チ同業會又ハ各組ヲ合セタル工業會商業會等ヲ開ク

コトヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ其規則ヲ設ケ戸長及郡區長ヲ

經テ縣廳ニ届出可シ

第十條 組合ニ關スル一切ノ費用ハ該組合中ノ負擔タル
ヘシ

第十一條 勸業上ノ件ニ付縣廳及郡區役所等ヨリ組合ノ
意見ヲ問フアルヘシ

第十二條 勸業上公益ノ件ニ付組合ノ名義ヲ以テ縣廳及
郡區役所等ニ意見書ヲ差出スコトヲ得此場合ニ於テハ
縣廳ニ差出スモノハ戸長及郡區長郡區役所ニ差スモ
ノハ戸長ヲ經由スヘシ

第十三條 組合中營業ノ實況ハ毎年六月十二月兩度戸長
及郡區長ヲ經テ縣廳ニ届出可シ

甲第二十七号

漁獵器具及ヒ使用方法ハ魚介鳥獸ノ蕃殖上關係不尠候
ニ付從來地方慣用器具ノ外發明品或ハ模造品等ヲ以テ
漁獵ヲナサントスル者又ハ慣用器具ノリト雖モ新規ノ
漁獵法ヲ開カントスル者ハ其方法ヲ詳記シ魚漁ハ第壹
号書式鳥獸獵ハ第二号書式ニ依リ某器具ノ圖面相添届
出ヘシ

但時宜ニ依リ現品又ハ雛形ヲ製シ差出サシムルコト有
ル可ク

右布達候事

明治十七年四月廿八日

愛知縣令國貞廉平

第一号書式

漁具使用届

一 漁具名稱

發明或ハ在來何具ヲ改造シ又ハ何國慣用ノ漁具模造
ニ係ル云々詳記スヘシ

一 主用方法

何魚ヲ捕獲スル網罟或ハ釣具ニレテ其使用方法云々
詳記スヘシ

一 位置

但他魚ニ兼用スルモノハ是亦同様詳記スヘシ
何國何郡海川ニテ使用シ或ハ他國郡海川ノ別ナク使
用スル等云々詳記スヘシ

一 季節

何月ヨリ何月迄凡何十日間使用レ或ハ季節ニ關セス
使用スル等云々詳記スヘシ

右何々器具ヲ以テ漁業致度候ニ付此段及御届候也

國郡區町村番地

年号月日 何 某印

縣令宛

郡區長 奧 書

第二号書式

獵具使用届

一 獵具名稱

發明或ハ在來何具ヲ改造又ハ何國慣用ノ獵具模造ニ
係ル云々詳記スヘシ

一 主用方法

何鳥獸ヲ捕獲スル器具ニテ其使用方法云々詳記ス
ヘシ

一 位置

但他獵ニ兼用スル者ハ是亦同様詳記スヘシ
何國何郡何山或ハ海川池ニテ使用シ或ハ他國郡山川
ノ別ナク使用スル等云々詳記スヘシ

一 季節

何月ヨリ何月迄凡何十日間使用シ或ハ季節ニ關セス
使用スル等云々詳記スヘシ

右何々器具ヲ以テ何獵ニ相用度候ニ付此段及御届候也

年号月日

國郡區町村番地

何 某印

縣令宛

戶長 郡區長 奧 書

甲第四十号

產馬組合規則別紙之通相定候條該事業ニ從事スルモノハ
右規則ニ基キ來ル七月三十一日限同業組合ヲ組織スヘシ
右布達候事

明治十七年五月廿二日

愛知縣令國貞廉平

產馬同業組合規則

第一條 產馬事業ニ從事スルモノハ便宜區畫ヲ定メ同業

組合ヲ設置スヘシ

但新タニ該業ニ從事セント欲スルモノハ便宜ノ組合

ニ加入スヘシ

第二條 各組合ハ其事業ニ係ル規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ

受クヘシ

第三條 組合ノ名稱ハ何郡區何部落 產馬組合ト稱スヘシ

第四條 各組合ハ頭取其他ノ役員ヲ設ケ該組合取締上ノ

事ヲ擔任セムヘシ

但役員ノ姓名ハ戶長役場及郡區役所ニ經テ縣廳ニ届

出ツヘシ

第五條 組合中ニハ頭取ヨリ其組合スルノ證票ヲ渡スヘ

第六條 產馬事業上ニ付縣廳及郡區役所ヨリ其組合ノ意

見ヲ詢フコアルヘシ

第七條 產馬事業上ニ付同業會ヲ開クトキハ其旨豫テ戶

長役場及郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ

第八條 組合中營業上ノ景況ハ毎年十二月戶長役場及郡

區役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ

褒賞

愛知縣平民盛田命祺ハ性朴直家世釀酒ヲ業トシ富饒一郡ニ冠タル者ナルカ天保七八年連歲登ラヌ人々菜色アルニ當リ潜ニ人ヲ四方ニ派シ夜ニ至リテ餓者ノ家ニ就キ米麥ヲ投シ其姓名ヲ告ケスシテ去ラシム蓋名ヲ慈惠ニ托シテ其ノ聲譽ヲ求ムルノ嫌ヲ避クルナリ又小鈴ヶ谷村白山社

ノ殿宇ヲ改造スルヤ拮据經營凡二十餘年ニ涉リ明治八年十一月ヲ以テ工ヲ竣フ其費額無慮四千貳百圓ナリ又知多郡ハ東西海ニ瀕シ中間山脈連亘シ村落其間ニ星散シ道路狹隘車馬ヲ通セサルヲ憂ヒ明治九年初メテ小鈴ヶ谷村ヨリ大足ニ達スル山間ノ細路及大谷坂井兩村ノ山路ヲ修理シ海岸ハ石ヲ疊ミテ便道ヲ開キ其ノ他支道ヲ修繕スル故舉ニ暇アラズ又明治五年始メテ義校ヲ設ケ村中兒童ノ教育ヲ創メ且暮自ヲ獎勵シ舉村學ニ就カサルノ兒童ナキニ至ラシメ該校ノ訓導ノ如キモ學資ヲ與ヘ東京大坂等ノ師範學校ニ入學卒業セシメタル者ニ係ル又嘗テ輸出入ノ不平均ヲ憂ヒ所有ノ山林ヲ開墾シ茶樹ヲ培養セシニ地味適セズ利潤甚寡シ因リテ山梨縣ニ至リ葡萄酒製造ノ業ヲ目

聖シ大ニ感發シ家ニ歸ルニ及ヒ官地若干歩ノ貸與ヲ請ヒ
 岩崎吉之助ヲ聘シ葡萄酒製造及栽培法ヲ講究シ拮据電勉
 自ラ錢笠ヲ着ケ風雪ノ中ニ奔走シ傭夫ヲ督シ專ラ開墾ニ
 従事ス數月ニシテ數十町歩ヲ開墾シタリ然レトモ猶之ヲ
 以テ足レリトセス再三官ニ請ヒテ前後合セテ五百二十町
 歩ヲ借り有志者ト協カシ開墾規則ヲ設ケ官許ヲ得テ之ヲ
 施行スル等其ノ成績顯著ナルニヨリ明治十七年八月一日
 賞勳局ニ於テ左ノ通賞與セラレタリ

愛知縣下尾張國知多郡小鈴谷村

盛田 命禎

多年志ヲ殖産興學ニ注ギ殊ニ明治十四年ノ頃ヨリ葡萄
 酒釀造ノ目的ヲ以テ官地五百餘町歩ヲ拝借シ且分借規

約ヲ設ケ以テ有志者ト協力シ之ヲ開墾スル己ニ數十町
 歩苗樹ヲ栽培シ之ヲ頒布スル數萬株其ノ成績著明ナリ
 トス依テ明治十四年十二月七日
 勅定ノ藍綬褒章ヲ賜ヒ其善行ヲ表彰ス

第二回内國繪畫共進會褒章人名

第二回内國繪畫共進會ニ付本縣ヨリ出品スル者九拾九名
 内褒狀ヲ得ル者左ノ如シ

名古屋區 鬼頭玉三郎

全 日比野金吾

全 吉川弘道

博物館開館景况

明治十七年九月十五日ヨリ十月廿四日マテ四十日開博物
館ヲ開館シ常備品ヲ衆庶ニ觀覽セシム此時ニ當リ又各郡
區ヨリ物産及古器物ヲ出品セリ其陳列ハ第一館ヨリ第三
館マテヲ常備品トシ第四館ヲ各郡區ノ物産トシ第五館ヲ
各業者ノ贄品トス又品評場ニハ名古屋區ノ有志者ヨリ古
器物ヲ出品ス漆器茶器銅器陶器文房具ノ五種ナリ之レヲ
兩度ニ引換陳列ス又同所ニ同好社員新書七十餘枚暨額ニ
裝置シ廂上ニ排列ス北設樂郡ヨリハ馬匹三頭内南部種牝
馬一頭一回雜種牝馬一頭牡馬一頭ヲ出品ス猿面茶室ニ於
テハ區内ノ茶宗日割順番ヲ以テ呈茶式ヲ行ヒ凡ソ室ニ入
ル者ニハ親疏ノ別ナク茶果ヲ享ス松月齋ニ於テハ同好社

員交番出席ヲ書ヲ求ムル者ニハ直ニ揮毫シ之レヲ與フ庭
園中ニ三ヶ所茶果賣店ノ設置アリ又有志者ヨリ點燈及煙
火ヲ寄附スル者三回開館中各郡區出品高及參觀人員等ノ
總計ハ左ニ表記ス

各郡區出品

郡區名	點數	個數	人員
名古屋區	二百七十點	二千百二十八個	二十五人
愛知郡	七十四點	百二十九個	八人
東春日井郡	九十五點	五百二十九個	十九人
西春日井郡	二十一點	百四十二個	八人
丹波栗郡	百十六點	千六百四十一個	十四人

寶飯郡	南設樂郡	北設樂郡	東加茂郡	西加茂郡	額田郡	幡豆郡	碧海郡	知多郡	海東郡	中島郡
十八點	七點	百七十五點	二十一點	三點	五十五點	三十八點	五十六點	七十五點	三十九點	百五十六點
五十五個	十二個	百七十九個	八十九個	四個	千二百三十九個	百五十一個	四百一個	二百〇五個	二百一個	百六十九個
十二人	五人	六人	十一人	一人	十七人	十八人	十四人	八人	八人	三十七人

同好社新書	漆器	茶器	陶器	銅器	文房具	計
	四十一個	四十六個	二十九個	二十個	五十三個	百八十九個
	七	十	二	七	十	二
	枚	枚	枚	枚	枚	枚
	八	八	八	八	八	八
渥美郡	八名郡	合計	古器物			
九十六點	九點	千三百十九點				
三百二十六個	十八個	七千六百十八個				
五十二人	七人	二百七十八人				
賣却個數	賣却個數	賣却個數	賣却上金額			
七	十	二	七			
八	八	八	二			
八	八	八	八			

二千七十一個 百九十九圓四十九錢

賣品賣上個數等

賣却個數	賣上金高	人員
一万二千六百四十八個	三百四十五圓〇三錢五厘	三十二人

參觀人員

日數	人員	員
四十日	三万四千九百十三人	一日平均八員
		八百七十二人八分

蠶病ノ注意 (農商務省報告)

凡蚕ニ種々ノ病アレト、リワケ尤恐ルヘキハ黑痣病ナリ
 此病ハ先年歐洲ニ流行シテ非常ノ慘毒ヲ逞クシ養蚕家ハ
 殆其業ヲ廢セントスルニ至レリ我蚕卵紙ノ歐洲へ輸出セ
 シモ全クコレカ爲ナリ其後歐洲ニテハ顯微鏡ヲ以テ病毒

ヲ検査スルノ法ヲ發明シテヨリ其病大ニ減セリ近頃我蚕
 卵紙ノ輸出大ニ減セシニテシルヘシ然ルモ今又支那ニ於
 テ此病大ニ流行シ江蘇浙江等ノ間最甚シク到處此病ヲ受
 サルモノナシトイフ抑蚕病ニ付テハ舊勸業寮以來官ノ最
 注意スル所ニテ既ニ去ル明治七年内藤新宿舊勸業寮農務
 課中ニ養蚕係ヲ置キ養蚕試験室ヲ設ケシヨリ以來專蚕病
 ノ起ル原因ヲサクリ又其治術預防法等ヲ試験シ始テ本邦
 ノ蚕ニモ亦古ヨリ此黑痣病ノアルコトヲ知レリ然レトモ
 本邦ハ家屋ノ建築體製造方法トモニ大ニ西洋ト異ナル
 所アルヲ以テ此病ノ治術預防法ニ至リテモ亦自ラ彼ト其
 方法ヲ異ニセサルヘカラス故ニ今回又特ニ此病ノ試験ニ
 着手シタレハ向後退々簡易ノ方法ヲ撰テ表示スヘト雖

先預メ此病ノ徵候ト爲ノ此病ニ罹ル理山トテ以テ養
 醫家ノ注意ヲ促スコト左ノ如ク
 此病ニ罹リタルモノハ其皮膚ニ黒痣ヲ生スルモノナリ此
 黒痣ノ生スル初ハ形最微ニシテ宛モ物ノ影ノ如ク薄クミ
 ヌレト次第ニ褐色トナリ終ニ煤黒色ニ變テ一種ノ光澤ヲ
 帯ルモノトス
 此痣各量狀ヲ繞ラシ其輪班漸々ニ大クナリテ全身ニヒ
 口カリ下度黒々漆ニ浸セル如クナルモノナリ此痣ノ最初
 ニ生シテ最大ナルハ通例前第四節ニ在ルモノナレト或ハ
 尾端ヨリ始マリテ漸々蔓延スルモノアリコト悲ハ特ニ皮
 膚ニノミ發スルカ故ニ脫皮ノ際或ハ消滅シテ少シモ痕迹
 ナ留メサルニアリ然レモ忽チ舊ノ色ヲアラハレ一層甚シ

クナルヲ常トス又其痣ノ大小ハ決シテ病ノ強弱ニ關ラサ
 ルモノトス或ハ病勢盛ニシテ已ニ極度ニ達スルモ痣ノ色
 ハ猶微ニシテ認メ難キモノアリ凡ソ此病ニカレレハ
 肛門ヨリ黄色ノ液ヲ出スモノナリ但シ此液ハ空氣ニ觸レ
 テ黒色ニ變シ且硬クナルノ性アリ其實ノ濃厚ノモノハ漸
 ヲカタマリテ肛門ヲ閉チ其稀薄ノモノハ腸中ニテ糞塊ヲ
 包ミ脱糞ノ際連綴シテ連珠ノ如キ狀ヲナス又此病ノ爲ニ
 脆レタル腸ハ漸ク乾キテ硬クナルヲ常トスレト或ハ死後
 軟クナリテ惡臭アル液ヲ出スモノアリ是ハ腐敗病ノ續發
 セルモノトス
 此病ニ罹リタル腸ハ前ニ述ベタル如キ黒痣ノ生ズルノミ
 ナラスコレト同時ニ消化リタル健康ノ腸ニ比フレハ体中

ニ瘦タニ部見エ食慾次第ニ減シテ漸ニ衰弱終ニハ食ヲ厭
 フノ狀アルニ至ル故ニコレヲ蠶癆トモ稱ス又其ノ眠起ハ
 健全ナル蠶ニ比フレハ稍遲シ初眠起マテハサホトノ遅速
 ナキヤウナレト第二眠起ノ頃ヨリ兩三日モ後レ第三眠起
 ニハ五六日第四眠起ニハ十日乃至十四日モオクルモノ
 トス
 元來此病ハ一種ノ寄生物ニヨリテ生スルモノニシテ遺傳
 ト傳染トノニテ兼ルモノナリ猶人ノ微毒ニオケルカ如レ
 而シテ此寄生物ハ極メテ微細ナル粒子ニシテ楕圓狀ヲナ
 シ長サ「ミリメートル」〇〇三「ミリメートル」ハ
 メートル」〇〇四五幅〇「ミリメートル」〇〇一五ヨリ〇「ミリ
 メートル」〇〇二ニ過キサレモ稀ニハ變形アリテ其長〇「ミ

リメートル」〇〇九ニ達スルモノアリ此物血球脂球等ヨリ
 稍鮮明ニシテ大抵二個ノ圓點アリ或ハ此點二個以上アリ
 テ宛モ砂粒ヲ含メルカ如キ狀ヲナスモノアリ又全体透明
 テ圓點ナキモノモアリ其蠶體及ヒ蛹蛾ノ体中ニ寄生ルモ
 ノハ一体中ヨリ夥多ノ粒子ヲ現出シ各粒漸ニ肥大ナリテ
 本然ノ大サニ達スレハ復粒子ヲ現出ス又其卵中ニ寄生ル
 セノハ一体中ニ一以上ノ蠶レ目ヲ生シテ漸分離スルモノ
 ナリ凡ソ此病ニ罹リタル蠶ノ体中ニハ氣管（蠶ノ呼吸ヲスル機
 ヲ除クノ外腸管尿管絲腺脂肪筋肉皮膚血液生殖器等一ト
 シテ此微粒子ノ寄生セサセモノナシ此病ノ遺傳ニ係ルモ
 ノハ其卵ノ未タ卵巢中ニアリテ十分ノ成熟ニ至ラサル
 以前ニ此微粒子ヲ母体ヨリ受ケ（父或ハコレアルモ病毒其

タ輕)其傳染ニ係ルモノハ此微粒子ノ塵ニ混リテ桑葉又ハ
 蠶具ナトニ附着スルヨリ起ルモノトス
 此微粒子腸中ニ達スレハ直ニ其腸壁ヲ胃スヲ以テ消化力
 漸ク衰ヘ脂肪中ノ脂球漸ク減シ血液變シテ褐色ヲ呈シ絲
 腺ハ處々ニ膨起リテ頓ニ鮮色ヲ失ヒ竟ニ皮膚上ニ黒痣ノ
 現出スルニ至ル
 稚蠶ノ此病ニ感セタルハ繭ヲ作ラステ斃レ晩ク傳染シ
 タルハ蛹又ハ蛾トナリテ後ニ死ヌ蛾ノ早ク此病ニ罹リタ
 ルハ爲ニ其生殖器ヲ侵サル、殊ニ多キカ故ニ卵子ニ遺
 傳スルヲモ又多シトス然レトモ蛾トナリテ後始メテ此病
 ヲ發シタルハ卵子ニ遺傳スルヲナレ但蛾身ニ黒斑アルハ
 該病ニ罹リタルノ徵候ナリ

此病ヲ遺傳シタル卵ハ大抵赤褐色ニシテ殼上斑紋亂レテ
 網狀ノ紋理正シカラス内容中ニ微粒子ノ最モ夥シキモノ
 ハ内容體ヲ成ス能ハサルヲ以テ孕化ス其稍少キモノハ
 漸ク孕化スルモ卵殼ヲ脱スレテ能ハスシテ斃レ是レニ次
 グモノハ漸ク半身ヲ脱セテ斃レ全身ヲ脱出スモ桑葉ヲ食
 フニ堪ヘスレテ死スルモノ又ハ其次ナリ其最少キモノハ
 孕化後若干ノ眠起ヲ經テ斃ル、前陳タルカ如ク
 元來此病ノ歐洲ニ起リシハ特ニ近年ノ事ノミニアラス今
 ナ距離ル一二百年前我貞享元西曆一千七百年代ノ末期ニ於
 テ該病大ニ流行シ蠶繭連年違作シ終ニ桑ヲ引拔キ他物ヲ
 植ルモノ多キニ至レハテ以テ外國ヨリ新ニ蠶種ヲ購ヒ入
 レテ遂ニ此害ヲ免カレシトイフ其後千七百五年我寬延及

七千七百二十五年 我安永
 年 間 再ヒ流行シ千八百四十九年 我
 永三ノ頃ヨリ又大ニ行ハレ千八百六十年 我安政ヨリ其翌
 年ニカケテ殊ニ甚シカリシガ千八百六十五年 我文久 舊幕
 府ヨリ我日本ノ蠶種壹萬五千枚ヲ佛國政府ニ贈リシヨ
 リ始メテ我蠶種ノ好キヲ知リコレヨリ更ニ蠶卵紙輸出
 ノ路ヲ開クトハナリヌ
 此病ハ前ニ際タル如ク古來歐洲ニテハ屢流行セシカト獨
 歐洲ニハカリ發スル病ニアラス我邦ニモコレアリ唯幸ニ
 未タ彼カ如ク其毒ノハビコラサリシノミ然ニカノ蠶卵紙
 ノ輸出一タヒ起リテヨリ唯枚數ノ多キヲ食リ糸繭ヲナス
 モノモ兎角ニ儲テ多ク獲ンテ心掛ケテ其蠶種及ヒ養法
 ニ注意セリリシヲ以テ該病ハ日ニ増シ月ニ殖エテ年々コ

レカ爲メニ不作ヲナスモノ少カラナトモ從來此等ノ病ニ
 付キ吟味ノ不行届ヨリ唯コレヲ氣候ノ所爲トノミオモヒ
 病蠶アレトモ曾テコレヲ怪マスコレ畢竟此病ノ深クヲソ
 ルヘキ理由ヲ知ラヌ故ナリ先年舊幕府ヨリ佛國ニ贈リシ
 蠶種ハ彼國ニテモ一時ハ良種ナリトテ評判高カリシカト
 其蠶種ノウチニサヘ既ニ該病毒アリシヲ以テ推シテ知ル
 可シ即其検査表ハ左ノ如シ
 一千八百六十六年ニ我舊幕府ヨリ佛帝ニ贈タル蠶卵帛
 ノ中二十五枚ヲ検査シタル成績

検査 タ、卵數	微粒子ヲ含ムル卵	検査シタル卵數	微粒子ヲ含ムル卵
三	一	三三	〇
外觀ノ惡キ卵者 赤緑色ノ者 ソレゾ	外觀ノ良キ卵	繭色	白

三	八	三	三	八	三	三	四	八	三	三
一	〇	一	二	〇	一	一	〇	一	〇	一
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	〇	一	二	〇	三	一	〇	〇	〇	〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	綠

三十五

三	八	三	三	八	三	三	八	一	三	三
二	一	〇	三	〇	一	三	〇	〇	〇	一
三	三	三	一	三	一	〇	三	三	三	一
六	〇	〇	三	〇	二	三	〇	〇	一	〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

三十四

右一枚ニ付平均三十六粒ツ、ヲ検査セルモノトスレハ微 粒子ヲ含メル卵八粒ノモノ一枚六粒ノモノ二枚四粒ノモ ノ三枚三粒ノモノ二枚一粒ノモノハ八枚微粒子ナキモノ 八枚ニシテ無毒ノモノハ僅ニ三分一弱ニ過キス又佛人が シ、氏ガ千八百六十九年ニ本邦ノ蠶種六百枚ヲ検査セシ ニ其微粒子ヲ含メルヲ左ノ如シ	八	一	三三	〇	同
蠶卵紙百枚ニ付 微粒子ナキモノ 微粒子ヲ固有スル卵一乃至六粒 全上七粒乃至十二粒	三	〇	三三	一	同
蠶卵紙百枚ニ付 十六枚 七十二枚 十一枚					

全十三粒

我が蠶卵紙ニ該病ノ多キヲ此ノ如キヲ以テ同氏ハ當時同
國養蠶検査官ニ迫リ外國ヨリ蠶種ヲ輸入スルハ黒痣病ヲ
再發セシムルノ楷梯ナルヲ痛論シタリシトイフ
示來今日マテノ間該病ノ蔓延ハ幾倍ナルモ知ルヘカラス
況ヤ冒頭ニモノヘル如ク蠶ノ病ハ尙此外ニモ種々アリモ
ノナルヲヤ養蠶家カ毎歲被フル所ノ損失モマタ莫大ナリ
トイフヘシ今ヤ養蠶ノ期既ニ至レリ此際養蠶家ハヨク養
法ノ注意モシ病蠶アルヲ日撃セハタトヘ一頭タリトモ其
何病タルニ拘ラス速ニコレヲトリノケテ焼キスツヘシ決
テ其儘肥料ニ用ヒ又ハ河ニ流ス等ノヲチナスヘカラス又
養蠶ニ用ウル一切ノ器具ハ充分清潔ヲ旨トシ遊メテ傳染

壹枚

ノ豫防ヲ怠ルナカレ

蠶病試驗第一 (農商務省報告)

蠶病即黑痔病ノ事ニ就キテハ官報ニ貳百六拾三號ニ登載
セシ如ク既ニ其ノ試驗ニ着手セシカ本月三日ニ孵化レタ
ル蠶中同六日ニ至リ病徴ヲ發シタルモノ數頭アリ因リテ
之ヲ別器ニ移シ飼養セシニ同時ニ孵化シタル健康ノ蠶ハ
同八日ニ至リテ眠ニ就キ翌朝脱皮シテ己ニ貳分五厘許ニ
成長セシモ病ニ罹レルモノハ其ノ大サ僅ニ壹分五厘許ニ
過キス脱皮ハ勿論細毛タモ脱シ得ス全身暗綠褐色ニシテ
頸部ニ灰白色ニ横斑ニ條ヲ餘セルアリ又己ニ貳分許ニ達
セルモ蠶身ノ前部三分ノ壹ハ灰白色後部三分ノ貳ハ淡褐

色ヲ呈シテ未タ眠ニ就カサルモノアリ其ノ暗綠褐色ヲ呈
セシモノハ中貳頭ハ十日ニ至リテ斃レタリ十三日ニ至リ
テ尙生存スルモノアレトモ蠶身却リテ壹分強ニ退縮セリ
是レ所謂縮蠶ナリ依リテ先ツ其ノ斃レタルモノヲ採リテ
之ヲ硝子板上ニ置キ針ヲ以テ之ヲ壓スルニ暗綠色ノ濃液
ヲ出セリ之ニ苛性加里ノ稀薄液ヲ注キテ顯微鏡ニ照スニ
滿液楕圓形ノ微粒子ヲ含メルコト宛モ米粒ヲ散布セシカ
如シ又其ノ中ニ細長ニシテ多少ノ縊レメアルモノヲ混セ
リ是レ微粒子ノ將ニ分殖セントスルモノナリ又其ノ淡褐
色ヲ帶ヒタル病蠶ハ十三日ニ至ルモ尙未眠ニ就カス是レ
所謂不眠蠶ナリ之ヲ顯微鏡ニ照スニ一鏡面ニ六粒ノ微粒
子ヲ含メリ同日更ニ健康ノ蠶ヲ點檢スルニ既ニ壹回ノ眠

此了りタレトモ其ノ中ニ身體瘦衰シテ健康蠶ノ三分ノ貳
ニ過キサルモノアルヲ發見セリ是レ所謂細蠶ナリ評ニ之
ヲ檢スルニ外貌ニハ大ナル異狀ヲ見ストイヘトモ體中少
許ノ微粒子アリテ將ニ分殖セントスルモノ多シ以上歴檢
セル所ニ由リテ之ヲ觀レハ縮蠶不眠蠶細蠶共ニ皆恐ルヘ
キ黒痣病ニ罹レルモノニシテ甲ハ此ノ病ノ最重症ニ陥リ
タルモノ乙ハ稍輕症ニシテ丙ハ又之ニ次クモノナリ若シ
之ヲ忽ニセハ畜ニ此ノ病ヲ遺傳シテ蠶ノ斃ル、ノミナラ
ス恰モ虎列刺病ノ如ク次第ニ傳染シテ遂ニ大ナル違作ヲ
來スヤ必セリ故ニ養蠶ノ業ニ從事スルモハ此ノ際仔細
ニ點檢シ前陳ノ如ク蠶身細小ニシテ眠起ノ後レタルモノ
ハ悉皆之ヲ燒棄ツヘシ決シテ單ニ土中ニ埋メ河ニ流シ或

ハ健康ノ蠶ニ混養スヘカラス若シ又蠶糞ニ肥料ニ用ヒン
ト欲セハ之ヲ人ノ通行セサル野外ニ堆積シ厚拭ノ類以
テ之ヲ蓋ヒ十分ニ水澆キテ氣ノ洩レサル様ニ注意シ少
クモ三晝夜ヲ經テ後始メテ之ヲ施用スヘシ

ラミ草報告抄譯 (官報謄寫)

(ラミ)草ヲ以テ絲ヲ製スル器械(五月六日附在米國紐育領事
館報告)米國ニ於テハ此ノ(ラミ)草ヲ試植セシメ今ノ距ル十
七年前ナリシカ其ノ後年々繁殖シ隨ヒテ種々製絲ノ事ニ
注意シ此ノ頃一種ノ器械ヲ發明セリ偶々該社ノ招ニ應シ
一見セシニ實ニ簡便ノ器械ニシテ容易ニ該草ノ皮ヲ剥キ
テ粗絲ヲ得然ル後ヲ精製シ絹及木綿麻等ノ織物ニ混用ス

今此ノ製造所ニ就キ親シク身聞シ得タル所ニ左ニ記セシ
 ニ凡壹、エーグルノ土地(我カ國ノ四段十八步余)ヨリ一ヶ年
 ノ收穫高大概八(トン)乃至十(トン)ヲ得(乾枯セシ時ノ量目ヲ
 云フ)之ヲ刈取ルノ時節ト度數トハ土地ト時候ニ依リテ異
 同アリト雖モ大抵六月十月ノ貳回トス生草ノ價ハ(見本第
 一)ノモノ一噸ニ付(二千二百封)凡米金拾弗粗製ノ織緯ハ
 (見本第二號ノモノ)一磅ニ付十五仙精製レタル純粹ノ織緯
 (見本第四號ノモノ)同四拾五仙乃至五拾仙アリト云フ又
 此ノ「ラミ」絲ヲ製スルニ支那法ノ手製ニ從ヘハ一日一人ニ
 テ製シ得ル所僅ニ三拾磅ニシテモキサレト此ノ器械ニテ製ス
 ルハ一日六萬磅乃至七萬磅ヲ得ルト云フ
 以上ハ實見實聞ニ係ルヲ以テ必大差ナキヲ信ス依リテ前

陳ノ如ク我カ國ニ於テ之ヲ製造輸出セハ大ニ得ル所アル
 ニ庶幾カラシカ
 猶左ニ米國農務省報告書中ヨリ此ノ「ラミ」ニ關スル報告
 ヲ抄譯シ參考ニ供ス此ノ報告ニ云フ所ヲ見ルニ我カ日本
 ヨリモ輸出スルカ如ク記載スレモ未曾テ之ヲ見聞セス或
 ハ生麻ノ誤ナランカ其ハ兎モ角モ我カ國ノ如キハ雜草荆
 棘ノ蔓生セル茫漠タル高野ニ乏シカラス故是等ノ場所ニ
 農間ヲ以テ培植セシメハ終ニ一廉ノ輸出品ヲ得ヘク且此
 ノ製造器械ノ如キモ左程高價ノモノニモアラサレハ此ノ
 器械ヲ輸入シ此ノ製造ヲ起サハ輸出ヲ増スハ疑ヲ容ル可
 カラス加フルニ古來我カ國ニ産スル楮皮或ハ雁皮ノ織緯
 ヲ此ノ器械ニ係ケ此ノ「ラミ」ヲ製スルカ如キノ法ニ倣ハ、

或ハ純良ノ絲ヲ得ルモ知ル可カラス假令純良ノモノヲ得サルモノトスルモ麻布綿布ニ比スルカ如キモノヲ得ルハ必難カラスト愚考セリ

見本ハ零又

農務省「ラミ」草報告抄譯

米國中「ラミ」ヲ植エシハ南部ルイジアナ州ヲ以テ起原トス是即チ千八百六拾七年ニシテ爾來殆ト人力ヲ要セスレテ頗ル繁植セリ若シ聊ニテモ培養ニ注意セシモノハ其ノ繁茂實ニ著大ナリ就中膏腴ノ高野ニ補付ケタルモノハ去ル六年間少シモ人力ヲ費サ、リシモ盛ニ生長セテ四方ニ蔓延セリ該草ハ冬季至レハ則チ枯凋シ春季來レハ更ニ夥多ナル新芽ヲ群出ス此ノ芽ノ生長シテ幹トナリシモノヲ凡一年ニ兩三回切取レハ其ノ部度益々強壯ヲ芽ヲ生シテ

彌々其ノ繁茂多キニ至ル此ノ草皮ノ織緯頗ル粘硬質ノ強ギモノコト之ヲ以テ織物トナストモハ其外觀恰モ絹ニ似テ光澤アリ當國ニ於テ一般俗ニ唱フル日本絹廣東布草布南京布杯ハ多少皆此ノ織緯ヲ混用シテ織リシモノナリ然レニ其性タルヤ暖氣保ツ能ハス寧ロ冷氣ヲ感セシムルモノナルカ故ニ到底綿布ノ市場外ニ驅逐スルノ効ナカハヘシト雖ニ麻布ハ大ニ其ノ影響ヲ蒙リ遂ニ多クハ市場ヲ退クニ至ルヘシ何トナレハ既ニ「ラミ」屑ト唱フルモノヲ以テ上等ノ麻布及贗製「カムフリック」白布ノ一種ト稱スルモノヲ製スルニ至リタレハナリ又其ノ完全最良ナル織緯ニ至リテハ一層高等ノ地位ヲ製絹場ニ占得シ廣ク絹織物ニ混用セラル、カ故ニ恰モ彼ノ「ヤンパン」セリ「ボルト」等

如キ名酒カ其ノ真正ノ釀造高ヨリ實際ノ使用高ニ於テ非常ノ過剩アルト一般ナリ如何トナレハ純粹ノ名酒釀造高千「ガロン」ナレハ使用ノ際之ニ他ノ飲料ヲ混合シテ千「ガロン」トナセハナリ此ノ「ラミ」ノ製精ニ於ケル實況亦然リ凡今日世界萬國ニ於テ實地釀造ヨリ得ル處ノ純粹ナル絹絲ノ量ニ比スレハ製精ノ額最多量トナル是他ナシ「ラミ」ノ混用此ノ多額ヲナサシムル所以ヲ見ルニ足レリ

千八百六拾五年ニ上海ヨリ歐州へ輸出シタル「ラミ」ノ總高ハ凡七百萬磅ナリ爾來漸ク其ノ高ヲ増進シタルナラン加フルニ印度及日本ニ於テモ多少其ノ輸出ニ着手シタルヤ蓋疑ヲ容ル可カラサルナリ

右ノ情況ナルカ故ニ目下ハ其ノ需用供給ト相平均スルニ

似タレモ到底需要ハ益々増進シ遂ニ供給ノ不足ヲ告クハニ垂ルハ猶火ヲ賭ルカ如シ是ヲ以テ米國諸州盛ニ其ノ植付ニ着手セリ今其ノ耕作法ノ要點ヲ左ニ掲載セン

第一「ラミ」ヲ耕作スルノ地ハ自然水乾ニ便ナル充分ノ高地ヲ好シトス何トナレハ地底ニ多ク水氣ヲ含ムノ所ニハ該草永ク其ノ生活ヲ保ツ能ハサレハナリ

第二地味ハ饒ニシテ地底深ク且空氣ノ流通宜シキ所ヲ選ムヘシ尤此等ノ點ニ缺乏スルノ土地ニハ肥料ヲ用ヒテ満足ノ成果ヲ見ルヲ得ヘシ

第三常ニ雜草ヲ拔去リ凡一年ニ二回宛八「インチ」乃至拾「インチ」位ノ深サニ地ヲ掘リ而シテ之ヲ水吐トナシ務メテ水ノ浸入ヲ防クヘシ

第四寒暖ノ度ハ凡七十度内外ニ適當トス
 右ノ方法ニ遵フキハ其ノ繁殖實ニ盛ナリ尤之ヲ植付クル
 ノ好時節ハ十二月一月二月ノ三ヶ月間ナリトス而シテ充
 分互ニ密接セシメテ植ウルヲ必要トス然ルキハ無用ナル
 枝葉ノ生長ヲ妨ケ以テ直立ノ良幹ヲ發育セシメ隨ヒテ其
 ノ纖維モ純良優美ノモノヲ生スヘシ

在米國紐育港領事ヨリ外務大輔へ報告セラレタル烟草
 栽培并ニ製造方法ハ栽培及製造者ニ於テ心得置タヘキ
 モノト認候ニ付左ニ全文ヲ掲ク

烟草栽培並製造方法ノ儀ニ付報告
 我輸出品中ノ重ナル生糸並製茶等ノ儀ニ付不ハ是迄續々

報告仕リ置候間夫々御覽閱被下候半ト存候然ルニ我國産
 ノ烟草ハ右兩品ニ次テ後來我輸出品中ノ重要ナル地位ヲ
 占ムルニ至ルヘキモノト確信候ニ付左ニ其所以ト進歩改
 良等ノ一端ヲ開陳仕候
 是迄我國ヨリ年々外國ニ向テ輸出スル烟草ノ商況ヲ觀ル
 ニ明治元年葉烟草ノ總輸出額ハ貳拾萬七千六百貳拾九斤
 ニシテ元價壹萬七百六拾三圓三錢七厘ナリ而シテ去ル十
 四年度ノ輸出ハ二百三拾六萬千三百三拾三斤ニシテ元價貳
 拾三萬五千九百貳圓ナリ由是觀之元年ヨリ十四年度ニ至
 ル漸次輸出ヲ増加シ殆ト十倍餘ノ多キニ至レリ而シテ元
 年ノ代價ハ壹斤五錢余ニシテ十四年度ノ代價ハ一斤拾錢
 ナリ然ラハ明代價モ亦壹倍ノ高貴ヲ爲セリ其他烟草類ノ

輸出アリ紙巻烟草ノ輸出アリト雖モ何レモ僅々ノ數ニシテ此葉烟草ノ如ク巨額ナラサルヲ以テ今ニ之ヲ贅ヒス夫レ斯ノ如ク目今ノ我葉烟草ハ十分外國ノ用ニ適セサルニモ拘ラス年々輸出増進ノ勢アリ若シ之ヲ改良シテ全ク外國ノ嗜好ニ適スルニ至ラハ其輸出ヲ増シテ國利ヲ生スル果シテ輸出品中第三等ノ地位ヲ占ムル敢テ疑ヲ容レサルナリ

右ノ次第ナルニヨリ其製造ノ精粗改良ノ法方等ヲ實地ニ試見シテ其適否如何ヲ查察センカ爲メ先般試ニ薩摩最上ノ葉烟草ヲ郷里ヨリ取寄セ當府ノ製造所ニ送テ試製セシメ別封ノ如キ一種ノ卷烟草ヲ製セリ右ハ我カ無香粗製ノ葉ノミニテハ全ク嗜好ニ適セス故ニ凡ソ日本葉半分ニハ

ハナニ烟草ヲ交ヘテ製セシモノナリ然ルニ右製造人ノ言ニ日本産ノ烟草ハ其原質善長ナラサルニ非スト雖モ如何セシ収獲ノ際之ヲ釀造ノ法ヲ知ラス只ニ烟葉ヲ摘採シテ之ヲ乾燥セシメレモノ故其最モ嗜好スヘキ香味ヲ消亡シ盡シ卷烟草ニハ適當セス云々ト因テ委シク其方法ヲ尋問セシニ其畧ニ曰ク烟草ノ善長ナルハ土地ト栽培トニ因ルモノト雖モ就中第一ハ収獲ノ際ノ製法如何ニ在ルノミハハナ人ハ之ヲ秘シテ妄リニ傳習セスト雖モ當國ニテ製法ノ大要ハ先ツ該葉成熟ノ期ニ達セシ時之ヲ摘採シテ之ヲ屋上ニ掛ケ凡ソ六週間其乾燥ノ適宜ヲ計リ一室内ニ堆積シ丁度我國ニ於テ總テ釀スカ如ク「ブランケット」様ノモノヲ以テ之ヲ蔽ヒ釀造スルヲ以テ單純ノ烟草ヲ得又別ニ種々

香味ヲ得ル爲メ或ハ「リンゴ」酒又ハ「アランギ」酒等ヲ撒布
 シ或ハ豆汁硝石攪類ヲ煎テ其汁ヲ撒布スルモアリ(思フニ
 我國ノ如キ或ハ煎茶ヲ用ユルモ可ナランカ然レトモ試験
 ノ上ニ非レハ斷言シ難シ)是ノ如クシテ其葉ヲ蒸シ其温度
 ノ加減ニ因テ堆葉ニ發汗スルヲ待テ其適當ノ期ヲ考テ初
 メテ之ヲ室中ニ乾カセ然ル後卷烟草ノ用ニ供スト云此方
 法種々ノ秘法口授等アリテ頗ル練熟ヲ要スト云フ
 右聞ク所ノ譯ナルヲ以テ我烟草ハ當國ノ使用ニ適セス故
 ニ是迄當國ニ向テハ輸入セサル所以ナリト云然ラハ則我
 國ノ一ケ年貳百三拾六萬斤餘ヲ外國ニ輸出スルハ果シテ
 如何ナル用ニ供スルカタ怪マサルヲ得スト雖モ是迄我國
 ノ烟草ヲ輸出スル多クハ歐羅巴ニシテ該地ニ在テハ更ニ

我烟草ニ製法ヲ加ヘ卷烟草ノ表面ヲ包ムノ用ニ供シ或ハ
 紙卷烟草ノ中ニ混交スルニ過キヌト云由昇觀テ歐州ニ於
 テモ我烟草ハ極メテ低價ナルカ爲ニ所産他ノ埋メ草ニ使
 用セラレ、ニ過キヌシテ別段單純ナル日本烟草ノ功用
 ナ爲スニ非ナルナリ夫レ他ノ埋草トナル猶貳百三拾萬斤
 ノ輸出アリ若シ之ヲ製造シ之ヲ改良シ單純ナル香味ヲ保
 ツ所ノ烟草ヲ得ルニ至ラハ其輸出ノ増加果シテ如何ソヤ
 因テ猶烟草製造書ニ就テ別紙ノ如ク其栽培並製造方法ヲ
 抄譯セシム大概前陳ト大同小異ニ似タリ當米國ノ市價ハ
 下等「ハ」ナ「烟草」ハ英壹斤ニ付銀幣壹弗四拾三錢(是レハ三
 金其他運賃ヲ掛ケ此ノ價トナリヤモ)「マ」ニ「烟草」ハ下等同
 ノ故元價ハ大概八十仙内外ナレハシ)「マ」ニ「烟草」ハ下等同
 壹弗十仙ヨリ四拾仙迄然ルニ我國ノ葉烟草ハ前項ニ述ル

カ如ク英壹斤ノ價僅カニ七錢以下タリ今我煙草ノ製造ヲ
シテ彼ノ「マニラ」或ハ「ハバナ」ノ善長ナルカ如キニ至ラ使メ
ハ十四年度ノ輸出額ヲ以テ假リニ其價ヲ算スルモ我斤
ニ引直シ是レニ「ハバナ」下等煙草凡ソ銀貨貳百五十拾壹萬圓
ノ元價八十仙ヲ乘シタルモ
余ヲ得ルノ道理ニシテ假令是ヲ半價ニ見込ムトモ凡百貳
拾五萬圓余ヲ得ヘレ果シテ然ラハ外國ノ嗜好ニ適スル素
ヨリニシテ輸出ノ増加蓋シ幾千萬斤ニ至ルモ知ル可ラサ
ルナリ況ンヤ此ノ煙草ナルモノハ他ノ雜貨品等ト違ヒ日
々月ニ消亡シ盡クヌ物ニシテ決シテ需用ニ限リアルモノ
ニ非サルヲ以テ假令ヒ幾許ノ巨額ヲ獲シ得ルモ其レカ爲
メ價格ニ甚キ影響ヲ及スノ憂ナキノミナラス其貯蓄ニ堪
エテ彌其價格ヲ昇貴スルノ利益アルニ於テオヤ是レ抽官

カ殊更ニ我輸出品中生糸製茶ニ次テ重ナルモノト斷言セ
シ所以ナリ

(別紙)

煙草ノ栽培製造並ニ使用
煙草ハ草木種族中ニ於テ類別ノ最モ多キ植物ナリ蓋シ造
物主其使用ヲシテ盛且普チカラ使ムルノ意ナラフ故ニ然
カク其種類ヲシテ多カラ使メシナラン今若シ天造物中何
物ニ限ラス其生産ノ數多ナルハ其目的ノ廣大ナルヲ推測
スヘキ定規トナストキハ煙草ノ種類夥キ其生長ノ強速ナ
ル其種子ノ量モ多量ナル且氣候甚タ異ナル所ト雖モ能ク
繁茂スル而已ナラス又善ク栽培ノ勞ニ酬ユル等ノ諸事ハ
以テ煙草ノ地へ代理者中高貴ノ地位ヲ占ムルモノト云フ

ヘシ烟草ノ種類多シ之ヲ細別シテ附名セシモノ凡四十種ヨリ少カラスト雖モ其中重ニ移植セルモノハ僅ニ十種以内ニ過キス就中「ニコシヤナ」ダハ「キユム」ヲ以テ最も多ク栽培セル者トス曾テ有名ナル「ニコシヤナ」氏始メテ此烟草ヲ以テ遂ニ以テ佛國某女帝ノ御覽ニ供スル榮譽ヲ得タルヲ以テ遂ニ同氏ノ名ヲ取リ之ヲ烟草ニ冠ラシメタリ此烟草ハ其種族中外觀ノ最も美ナルモノトス我輩嘗テ之ヲ英國ニテ目撃セリ當時四月ヲ經シモノニテ其丈凡六「フヒート」ニシテ其幹ノ形ハ尖石碑ノ如ク幹根ノ大サハ肥大ノ手腕ト箱ヤ相同シ而シテ強堅ナル根株ト婦人頭髮ノ如キ許多ノ細根トヲ以テ樹立セリ尤此烟草ノ性タル常ニ地中ヨリ拔ケ出ル癖アルモノニ付毎ニ土ヲ以テ其露出セル根ヲ蔽ハサシ

ヘカラス

幹上許多ノ枝アリ枝上華美ナル葉アリ葉ハ蛋形ニシテ尖リ其長二十四「インチ」其徑十八「インチ」ナリ外面ハ柔ニシテ剪縮ノ如ク且神經体ノ如キ細線アツテ中心線ヨリ左右殆ント直角ニ葉面ヲ幾多ノ小區ニ分ツ葉色ハ黃緑ナリ葉ハ粘リテ辛味アリ花ハ紫色ナリ實ニ長方形ニシテ中部兩區ニ分ツ各細微ノ種子ヲ有スル無數ナリ「リニヤ」氏嘗テ一ノ實中ヨリ四萬三百二十ノ種子ヲ數ヘリ曾テ烟草ヲ伐採リ之ヲ室ニ懸ルコト三週間遠ニ美花ヲ開ケリ以テ其再生力ノ強盛ナルヲ見ルヘシ蓋シ其花蕾伐リタル幹ニ殘ル所ノ液汁ヲ吸收シテ獨自ヲ開發スルニ至リシナラン種子ハ十五年間其生活カヲ維持スヘキナリ

緯度四十度ト四十七度ノ間ノ氣候ハ最モ強キ味アリ。烟草
 ノ栽培ニ適應スルモノ。如シ但シ其味最モ軟カニシテ健
 全ナル種類ハ是迄極暖ノ地ニ産セリ
 「キユーバ」島ハ「バナ」産ノ烟草ハ最モ良好ニシテ世人ノ許ス
 所ナリ該島ハ烟草ヲ産スルノ故ヲ以テ「スペイン」國王皆庫
 ノ名アリ何トナレハ該嶋ノ烟草ハ萬國貴紳ノ嗜好欠クヘ
 カラサル驕奢ノ重ナル道具トナリタレハナリ
 「マニラ」烟草ハ「フィリッピン」諸嶋ノ一ナル「ルソン」島ノ産ナ
 リ普通ノ考コハ「マニラ」烟草ハ阿片ヲ以テ製セシモノトス
 レトモ然ラス我輩最モ精微ナル化學上ノ試驗ヲ以テ之ヲ
 檢セシモ其多キ種類中何レノ者ニモ阿片一點ノ痕跡ヲ見
 サリシナリ

西方亞細亞ノ「シリヤ」國「ラタキヤ」烟草「ラタキヤ」ハ新約全書
 ニ記セル耶蘇宗教ノ一派ナル「ラフダシヤ」寺院ノアル所ナ
 リ「メルンヤ」國「シラズ」烟草並ニ「トルコ」烟草ハ世最モ珍重ス
 ル所ナリ以上ノ三種ハ歐洲ニ於テハ混和ノ法ヲ以テ之ヲ
 製シ烟草ニ供ス
 亞米利加ニ於テノ「ベルジニヤ」「メリ」ランド「ルイシヤナ」ハ
 「ナ」ア「ク」バ並ニ「セント」ビンセント「印度」ニ於テノ「ヒリッ
 ビン」諸嶋並ニ「ボロン」コ「歐羅巴」ニ於テノ「スペイン」「フランス」
 「イ」リ「アマ」ルス「フ」オ「ルト」和「ホ」ランド「和」蘭「ベ」ル「ユ」ム「レ」バ「レ
 ント」嶋「シ」レ「シヤ」並ニ「ア」ク「レ」イ「ン」等ハ地球上烟草ノ製造並
 ニ輸出ニ於テ最モ重ナル貿易ノ地トス
 嘗テ「ア」メ「ル」ラ「ンド」並ニ「ヨ」ルク「シヤ」ノ「ア」ノ兩地ニ於テ盛ニ

烟草ヲ栽植セシガ英政府禁令ヲ發シテ之ヲ止メタリ蓋シ
 其領地中他ノ烟草產地ノ爲メニ妨碍トナシハナリ現今尙
 英國並ニ「アイルランド」ニ於テハ栽植ノ禁令アリ若シ之ヲ
 植ウルモノアレハ直ニ之ヲ伐却シ且ツ拾「ポンド」ノ罰金ヲ
 課ス然レトモ嘗テ第十七世ノ時眞ニ英國ニ産スル「マンド
 ノカスト」ト名クル惡臭ノ烟草ヲ以テ「トルコ」國民ニ給セシコ
 トアリ

烟草ハ輕泥ノ地ヲ要ス肥料ハ其性質ノ強健軟弱ニ因リ適
 宜ニ是レニ相當スルモノヲ用ヒサルヘカラス
 氣候土壤栽培ノ法肥料ノ種類摘葉ノ時季乾燥ノ仕法乾燥
 室ニ入レ置ク時間運搬ノ距離製造ノ方法等ノ諸事ハ各様
 ニ烟草ノ性質ヲ變スルコト疑フ可ラサキナリ若シ炭火等

ノ熱力ヲ借リ烟葉ヲ炙リ製造者カ用ヒシ水氣 去ル等ノ
 事ヲナサス自然空氣ノ乾燥ヲ得ル彼葡萄酒等ヲ貯蓄スル
 カ如ク其保存ニ注意シ以テ年月ヲ經ハ其性質益善良ニ變
 スヘシ

前文ノ氣候土壤等ハ其數多ク且場所ニ由テ千萬ノ差別アリ
 故ニ是等總テ宜ヲ得テ此最良ノ植物ヲ産スルノ地甚偉
 ナリ由是此ノ烟草ハ彼ノ葡萄樹茶並ニ珈琲等ノ如ク最良
 ノ產地ヲ得ル容易ナラス一般ニ區域狹隘ノモノナリ且其
 產地ナル温帶地方ニ於テハ一夜ノ降霜以テ悉ク之ヲ害殺
 スヘシ其害ヲ被ムルハ栽植ノ初メト成熟ノ後トニ於テ更
 ニ異ナルコトナシ
 米國ノ烟草產地ニ於テハ是迄此ノ害ヲ被リシコト屢アリ

故ニ米國並ニ他ノ温帶地方ニ於テハ始終注意ヲ要サレ
ハ栽植遂ニ無功ニ属スヘシ三月初旬床ニ土壌ヲ温メテ種
メニ捺ラフアル下種セル一週間ニシテ發芽ス其大サ針頭
場所ヲ云フヨリ大ナラス成長速ニシテ五月初旬ニ至レハ移植ニ堪ユ
ヘシ之ヲ床ヨリ引拔キ一株ノ烟草苗ヲ三「フヒト」四方ノ
地ニ植ウヘシ即チ「エーカ」ノ地ニハ一千六百十三本ヲ植
ウヘシ其幅廣ク且ツ剛強ノ葉ヲ要セハ此割合ヨリ多ク植
ウヘカラス此ノ如クヌレハ一株ヨリ収穫スル所凡細身半
斤ヲ得ヘシ即「エーカ」ノ地ヨリハ八百斤ヲ得ルノ割合ナ
リ
移植ノ時ハ枝葉未タ充分成熟セサルノ時ナルヲ以テ其弱
キ細根ヲ害セサル様注意スヘシ其強盛ナル成長力ヲ伸ハ

シムルニハ充分ノ土地ヲ與フルヲ要ス例年五月初旬ヲ以
テ移植ノ時トス然レトモ此際尙降霜ノ爲メニ往々全ク其
勞ヲ空クスルコトアリ此ノ如キ時ハ兼テ移植ノ爲メニ備
フル貯蓄所ヨリ更ニ苗草ヲ取り之ヲ植ヘ換ヘサレテ得ス
甚タ不幸ナル年ニハ此ノ如キコト二三回ニモ及フコトア
リ若シ此ノ如ク失敗三回ニ至ルアレハ佛人ハ復々烟草ヲ
植エスシテ更ニ麻ヲ栽エ以テ其年ノ損失ヲ減少ス然レト
モ萬一三回目ノ移植ニテ烟草能ク成熟ヲ得レハ其ノ利益
ノ大ナル以テ栽培者ノ勞ニ酬ユルニ足レリ
却説移植後苗草能ク成長シ春日ノ温暖ヲ受ケ愈伸長スル
モ栽培者ノ勞事ハ未タ此ニ盡ルト云フヘカラス何トナレ
ハ此際或ハ甲蟲仔蚯蚓並ニ昆蟲等ノ害ニ罹ルコトアレハ

ナリ一ヶ月間ハ石炭又ハ鋸屑ヲ以テ此害蟲ヲ除去セサル
 ヘカラス尤モ其後ハ苗草稍ヤ成長シ能ク此等ノ害ヲ免ル
 ヘキナリ
 烟草ハ獨リ其地ヲ占メ他ノ雜草ヲシテ其間ニ生植セシメ
 ス此ノ點ニ於テハ他ニ其比ヲ見サルナリ故ニ烟草ハ其領
 地ノ王ナリト云フヘシ然レトモ時ニハ其臣僕タル雜草ノ
 壓服スル所トナリ君王草ノ名義ヲ保ツヘカラサルハ亦是
 非モナキコトナリ
 天地間ノ活物ハ各寄生蟲ノ害ヲ受ケサルハナシ即チ人間
 ニハ体ノ内外ニ貳十種ノ蟲アリ烟草ニモ亦害蟲甚カラス
 就中一種特別螟蛉アリ好テ葉ヲ嚼害ス朝夕能ク注意シテ
 葉芽ニ潜伏ノ時之ヲ除去セサレハ遂ニ全クチ擧テ其嚼害

ニ委ヌヘキナリ
 苗草日ナラスヤテ成長シ勢益強盛ニ赴ムク時ニ至テハ却
 テ其成長ヲ遏止セスンハ好結果ヲ得カタシ凡一株ノ烟草
 ニ葉數十二枚ヲ以テ足レサトモ故ニ其期ニ至テ幹未ヲ切
 リ去リ且花蕾ハ時々除去シテ開花ヲ妨碍スヘシ開花ハ葉
 質ヲ損ルモノナレハナリ
 九月初旬カ又ハ成熟ノ模様ニ由リ同月下旬ヲ以テ烟草収
 穫ノ時トス開ク熟地ニ於テハ其反熟ノ時烟草ノ周圍ニ香
 氣ヲ放ツト云

米國ニ於テハ煙葉ハ幹ト共ニ之ヲ取り普佛ノ兩國ニ於テ
 ハ葉ノミヲ摘ム（收穫ノ際醸造ノ法ヲ用ヒスシテ）是等ノ法
 ニ因テ製シタル葉ハ何レモ液多ク且其色綠ニシテ其質脆

シ故ニ卷煙草ニ製シ難シ去レトモ或ル龍動ノ煙草製造者
 カ嘗テ此葉ヨリ製セシ卷煙草ヲ以テ本文ノ謂者ニ與ヘタ
 ルコトアリ實ニ奇ト稱スヘシ朝露ノ晞クヲ待テ土際ヨリ
 幹ヲ伐ルカ或ハ葉ノミヲ摘ミ之ヲ終日日光ニ曝シ晩氣ノ
 降ル前室内ニ収ムヘシ
 葉ノ著キタル幹或ハ葉ノミヲ小家又ハ樓内ニ懸ケ日光並
 ニ空氣ノ流通ヲ宜クセハ六七週間ニシテ全ク乾クヘシ良
 法ハ先ツ之ヲ堆積スル一週間其蒸ニテ葉面ニ汗ノ如ク汗
 ヲ含ムノ時ヲ待テ然後之ヲ前ノ如クニ懸クヘシ然ルトキ
 ハ其乾燥稍ヤ速カナルニミナラス其味更ニ佳ナリ乾燥後
 濕潤ノ日(ヤンキ)北米ニユイソク住民ノ通稱ハ之ヲ多液ノ日
 ト稱スヲ撰ミ葉ヲ堆積シテ床上ニ置キ蔽フニ蓆又ハ洋氈

ヲ以テシ恰モ麴ヲ醸造スルカ如クシテ以テ粘汁ヲ葉上ニ
 發釀セシム此ノ醸造法ハ煙葉ノ格段ナル香味ヲ發スレハ
 ナリ
 煙草ノ乾葉ハ他ノ草木ノ乾葉ト比スルニ別ニ別ニ香味アルニ
 アラサレトモ其格段ナク醸造法(麴ヲ造ルカ如ク蒸シテ釀
 ニ因テ之ヲ生スナリ
 種々ノ酒類又ハ流動体ノ混合ヲ用ヒテ醸造ヲ速ニシ且一
 層格別ナル香味ヲ帶ハシメ以テ他種ト相別タシム米人ハ
 其最モ珍美スル「カベンディシ」ナル煙草ノ或ル種類ニハ林
 檜酒ヲ用ヒ「ハバナ」ノ煙草栽培者ハ種々ノ香味アル樹膠ヲ
 以テ混合セル流動体ノモノヲ製シ之ヲ用ユ而シテ其製造
 法ハ秘シテ之ヲ世ニ公ニセス獨逸並ニ關人ハ礪砂硝石ニ

不潔物ヲ交エ之ヲ用ユリ云然レトモ是レハ健康ニ害アリ
 釀造法ハ周圍ノ温度ノ加減ニ由リテ迅速アリ大概三十六
 時間ヲ以テ足レリトス製造中最モ緊要且難事ナルハ此釀
 造ヲ止ムル時トフ堆積セル煙葉適宜ノ温度ニ達シタル時
 之ヲ止ムヘシ然レトモ釀酒ノ如ク此熱度ハ學問上ニテハ
 斷定シ難シ只實際ニ熟練ノ人之ヲ能クスヘシ其方法タル
 堆棄中ニ手ヲ差シ入レテ其熱度ノ加減ヲ考明ス若シ熱度
 ニ過不及ヲ生セバ實際ニ慣レハ容易ニ之ヲ知ルヘシ煙草
 ハ即チ微ヲ生シ其市價爲ノニ下落スヘシ釀造ヲ止ムルニ
 ハ其極度ニ達シタル時葉上ニ微フタルモノヲ微シ其葉ヲ
 開撒シ且表面ト裏面ト翻ヘシ置クヘシ多少濕リ居レハナ
 リ釀造中發汁ノニハ空氣中濕氣ノ多少ニ因テ差アリ細微

ナル溫和ノ發汁ハ何レノ煙葉ニモ當テ發シオルモノナリ
 故ニ最良ノ亞米利加並ニ「ババナ」煙葉ハ日ヲ經ルニ從ヒ愈
 其良質ヲ進益スト雖モ他ノ惡質ノ煙葉ハ愈其質ヲ惡クス
 ヘシ由是觀之最良ノ「ババナ」煙葉ヲ蓄積スルノ必要ナル以
 テ知ルヘキナリ此最良ノ煙葉ハ年ヲ經ルニ隨ヒ益其質ヲ
 善良ニ進ムヘキナリ
 釀造後ノ取扱ハ各國其法ヲ異ニス或ハ葉ヲ捻テ之ヲ捲キ
 或ハ俵ニ積メ或ハ米國ニ於テハ之ヲ大酒樽ノ如キ器ニ入
 レ強キ榨木ニテ之ヲ壓シ過不及ナキ様全葉ニ粘汁ヲ染収
 セシム
 以上説ク所ニ因レハ煙葉ノ種類數多ナルハ其種子ノ異ナ
 ルニ因ルノミナラス土壤栽培并ニ發汁ノ時ニ用ユル酒其

他ノ物種ニ由ルコト明ナリ是レ米國獨逸和蘭佛國一マニラ
 並ニ「ハバナ」煙草ノ大ニ相異ナル所以ナリ若シ是等諸國産
 ノ煙草ヲシテ「ハバナ」人ノ手ニテ製セシメハ必ス地球中第
 一ト稱スル該嶋ノ煙草ト異ナラサルヘシ更ニ一步ヲ進メ
 若シ之ヲ「ハバナ」ノ地ニ植ヘ「ハバナ」ノ法ニテ栽培セハ其煙
 草ニ似ルコト疑フヘカラサルナリ
 世界中卷煙草ノ最モ盛大ナル製造所ハ「フヒリッピン」諸島
 「マニラ」嶋ニアリ其中或ル製造所ニ於テハ一萬人ノ女工ヲ
 雇使セリ
 今假リニ煙草栽培者カ最良ノ煙草數種ヲ植ウ毎「エーカー」烟
 葉各八百斤ヲ収ムルモノトシ我輩ヲシテ之ヲ龍動市場ニ
 賣サシムルトキハ毎「エーカー」幾許ノ價ヲ得ヤ今之ヲ栽培

者ノ市場ニ賣ル葉烟草ノ價ニシテ且政府ニ一稅セサル時
 ノ價ヲ云平均スルトキハ即チ左ノ如シ

地名	每「エーカー」ノ收穫	壹英斤ノ價	每「エーカー」收穫ノ總價額
「ボルシニヤ」ノ葉	八百英斤	壹「シリング」	四拾ポンド
「アモルスフォルト」	全	六ペンニー	二十ポンド
「コロンビヤン」	全	貳「シリング」	八十ポンド
「ゼルマン」	全	壹「シリング」	四十ポンド
「マニラ」	全	五「シリング」	貳ポンド
「ボリトリコ」	全	壹「シリング」	六拾ポンド
「ハバナ」	全	六「シリング」	貳百四拾ポンド

三田育種場種苗交換規則

農務局三田育種場ニ於テ例年開設アリシ種苗交換市ハ是迄只種苗交換ノミナリシガ本年更ニ規則ヲ改正セラレ其優等品ヘハ褒賞ヲ授與セラハ即チ該會規則ト本年縣下ヨリ出品中賞與ニ預ルモノトテ左ニ掲グ

- 第一則 此ノ規則ハ内外植物ノ種子苗木ヲ自由ニ交換セシメンカ爲ニ設クルモノニシテ畢竟有益ノ植物ヲ全國ニ普及スルヲ要旨トス故ニ不良ノ種苗ヲ以テ人ヲ騙満シ或ハ不當ノ價ヲ貪ルヘカラヌ
 - 第二則 各地ニ産スル種苗ヲ交換賣買セント欲スルモノハ誰人ニ限ラズ市場ニ出品スルコトヲ得ヘシ
- 但シ出品人ハ總テ其ノ本貫族籍ヲ育種場ヘ届出ツヘ

第三則 出品ノ種苗ト共ニ其ノ収穫物製造品及其ノ他農具類モ亦交換賣買スルヲ得ヘシ

第四則 開市ハ毎年二月一日ヨリ十日マテトスト雖モ其ノ出品ノ都合ニヨリ十日間日延スルコトアルヘシ

第五則 出品ノ種苗ハ品名產地栽培畧法及數量代價等ヲ記載シ定期ヨリ二三ヶ月前ニ於テ育種場ヘ報告スヘシ若シ豫メ報告シ難キモノハ此限ニアラス

第六則 種苗ヲ購求スルモノハ遞送ノ時日ヲ計リテ該場ヘ申出ツヘシ

但シ來場セスシテ請求スルモノハ先ツ品物ノ價格ヲ問ヒ其代價ヲ郵送シテ後遞送ヲ請フヘシ尤代價ニ拘

ラス遞送ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第七則 品主自ラ來場セヌシテ物品ノミ出ヌモノハ下ノ表式ニ照準シ表ヲ附シ品物ニ添ヘテ之ヲ遞送スヘシ遞送費ハ自辨タルヘシ

但シ種苗方言及郡村ノ名ニハ必傍訓ヲ付スヘシ

第八則 出品ノ交換賣費剩餘ハ該場ニ於テ之ヲ賣リ代金ヲ品主ニ還付スヘシト雖モ購求スル者ナキ時ハ直ニ其品物ヲ還付スルモノトス品主自ラ之ヲ鬻キ或ハ之ヲ携歸スル等品主ノ隨意タムヘシ

出品表式

號	品名	方言	言産地	數量	通價	單價	通價	出品人名
---	----	----	-----	----	----	----	----	------

一出品 朝鮮黃花草綿種 三河國轄豆部治明村 三 矢 甚 十

四等賞品 農業全書 探蟲指南 各壹部

尾張國海西郡藤ヶ岡村

一出品 卷丹 日榮 勝 兵 衛

五等賞品 農家備要 蔬菜類耕種法 各壹部

油ヲ以テ波濤ヲ鎮靜スルノ説

岩手縣勸業月報抜抄

管下沿海ニ於テ漁舟ニ乗リ鍵又ハ金網様ノモノヲ以テ
鮑ヲ捕獲スル者ハ昔海面ニ油ヲ注ケリ是油ノ能ク細波
ヲ鎮靜スルト云ヲ以テナリ然レモ之ヲ大海ニ注キ怒濤
激浪ヲ鎮靜スルヲハ未タ人ノ知ラサル所ナルニ今官報
ニ載スル所ヲ見ルニ油ハ如何ナル怒濤ト雖モ能ク之ヲ
鎮靜スト果シテ然ラハ他ノ漁業ニ從事シ大海ニ出ツル
者ハ常ニ油ヲ積載シ置カハ必ク危険ヲ防キ魚腹ニ葬ラ
ル、ノ患ヲ免カレム依テ今其官報ニ載セタルモノヲ左
ニ摘録シ以テ漁業者注意ノ資トス
油ヲ以テ波濤ヲ鎮靜スルノ試験ハ曾テ屢執行セシ所ナル
カ又近頃英國ニ於テ之レカ試験ヲナシタルニ頗ル好結果

ヲ得タルハ航海事業ノ爲メニハ一大緊要ノ件ナリトス今
一二(ガロソ)一ガロソハ凡我カ二升五合ノ油ヲ海面ニ注射
スルニ如何ナル怒濤ト雖モ必ク靜穩ニ歸スルヲ以テ太西
洋ノ氣船會社ハ既ニ一ノ問題ヲ起シ油ノ注射器ヲ船舶ニ
裝置シ若シ危急ナル暴風怒濤ニ遭遇セバ之ヲ以テ船舶ノ
顛覆ヲ防クノ具トナサンヲ企圖セリト云フ又其後開濶
ニシテ大洋ノ動搖ニ感シ易キフオックスポートニ於テ
再ヒ右ノ試験ヲ行ヒシ時ノ模様ヲ記サンニ小船ヲ浮ヘテ
三箇所ヨリ油ヲ注射シ油ノ作用ヲ驗知セントスルニ當リ
波浪ノ動搖甚ク爲メニ暫ク其出船ヲ止メントセシ程ナ
リシカ其結果ハ人ノ意表ニ出テタリ即チ二三桶ノ油ヲ海
面ニ注射セシヤ否ヤ波ノ動搖ハ忽チ止ミ怒濤ノ上ニアリ

シ船ハ平滑ナルコト鏡面ノ如キ海上ヲ渡航シ遂ニ難クナ
ク海岸ニ到着スルヲ得タリ但シ三箇所ヨリ注射シタル油
ノ作用ハ皆同一ナリキ而シテ一時此ノ港灣ノ靜ナルヲ恰
比池面ノ如クナリシカ油ノ注流セサル所ハ波濤ノ動搖前
ニ異ナラザリキ而テ此ノ作用ヲ保チシト一時ノ永キニ
亘リ其費用ヲ數フルハ僅ニ二磅ニ過キス依リテフオルク
ストーン港ニハ油ノ注射方ヲ設ケテ暴風ノ際該港ニ出入
スル船舶ノ安全ヲ計ラント欲シ既ニ其ノ準備ニ着手セリ

馬ノ諸害ヲ除ク (德島縣勸業雜誌抜錄)
此ノ馬ヲ整テ患フルニハ胡桃ノ葉一水煎シ其汁ヲ塗レハ
此來ツテ害セス

瓠ノ新葉ヲ用ヒテ馬ヲ洗浴スレハ妙ニ其蠅ヲ驅ルヘシ又
其乾葉ヲ室内ニ燒キ薰スルモ蠅ハ窓中ニ死ス或ハ戶外ニ
飛散シタルモノハ再ヒ來ラスト云
石油又ハ樟腦油ヲ以テ馬ヲ拭ヘハ能ク虱ヲ殺スヘシ又臭
^{カラ}筵ノ實ヲ筵ノ儘ニ煎シタル汁モ亦効アリ

本縣秋期農談會要話

番外二十一番八名郡書記鈴木平五郎曰ク十月十一日遠江
國報徳本社ニ於テ静岡縣遠江國周知郡森村木村武七ナル
者麥作ノ説ヲ陳述シ聽衆ヲシテ大ニ感發セシメタリト親
友ヨリ筆記シテ贈レルヲ一讀シ感スル所アレハ一言セン
麥種ハ一度篩ヒ六度簸分ス播種期節ハ暑氣酷烈ニシテ寒
暖計九十度以上ニ昇リタル日多カリシ年ニハ秋ノ土用ヲ

五日掛ケテ播種。大暑ノ候陰冷ニシテ寒暖計九十度以上ニ昇リタル日少ナカリシ年ニハ秋ノ土用明ノ日ヨリ下種ス但シ種子ハ一畝歩ニ付三合ニ夕五才ヲ通常トシ若シ此期節ヨリ後ル、時ハ五日毎ニ種量ニ夕五才ツ、増ス而シテ尙後ル、土用明ヨリ二十日ヲ經過スレハ収穫麥ノ目方一升ニ付一日毎ニ一匁ヲ、減スルモノナリ故ニ播種期節ニ注意セサルヲ得ス畦巾ハ鯨尺ニテ二尺六寸トシ深サ三寸ニ畦ヲ切り一畝歩ニ付土肥三荷程畦ニ布キ糞水二荷半ヲ注キ然ル後播種ス耕作及施肥ノ期節ハ播種シテ後七日目ニ發芽シ十五日目ニ至レハ一葉生ス此時ニ方リ一番耕作ヲ爲シ水肥ヲ注ク蓋シ麥ハ七葉七節ヲ有スルモノナレハ一葉出ル毎ニ耕作シ水肥又ハ踏肥等ヲ施ス此故ニ凡

テ七度耕作シ七度施肥スルヲ肝要トス而シテ一番耕作ハ淺ク二番三番ヲ深クシ爾來普通耕作ト異ナルコトナシ如此スル時ハ沃壤ノ地ノアラサハモ入俵乃至十俵ノ收穫ヲ得加フルニ搗麥トシテ堅ニ條ナキ穢ニナルモノナリ是レ實入ノ一層宜シキニ依ルヲ以テナリ

蕎麥貯蓄法

縣下三河國北設樂郡稻橋村老農古橋源六郎父暉兒同村農青木禮右丁門ナル者四十八年間貯蓄セシ蕎麥粉ヲ以テ曾テ本課長ニ贈リタリ課長之ヲ三分シテ一ヲ本課ニ貯ヘ一ヲ田中議官ニ贈ル議官之ヲ珍トシ光永弘道ヲ以テ貯蓄法ヲ質問セシメラレタリ本課長同郡巡回ノ際古橋宅ニ投シ談備荒貯蓄ノ事ニ及ヒタリ依テ

其回答如何ヲ訪ヒタレハ暉兒左記ノ如ク答ヘシト云
 故ニ茲ニ揭ケ備荒貯蓄有志者ノ参考ニ供ス
 一蕎麥ノ粒ノ儘初年ニ充分乾カシ俵ニ入レ堅ク五ヶ所ヲ
 締結シ乾燥ノ場所ニ貯藏ス
 一蕎麥ヲ斯ク多年貯藏スル慣習ハ未ダ之レアラズ當地ハ
 降霜早キ故稗收穫ノ跡ヘ播種スル而已ナレハ收穫ノ數量
 モ隨テ僅カナリ故ニ各戸播種ハセサレナリ
 一藤右工門ナル者本年七十二ノ齡ニ至リ天保七申年ノ凶
 作ニ罹リ始テ穀類貯蓄ノ緊要ナルヲ了知シ蕎麥ハ貯藏ス
 ルニ詰替ヲ要セサル説ヲ曾テ聞知シタレハ翌酉年ニ之ヲ
 貯藏シタリ即チ來明治十八年ハ天保申年ヨリ五十年ニ當
 レルヲ以テ之ヲ紛ニナシ味ヲ試ミニ味變換スルナシ然

シ色澤少々赤キヲ加フ又俵肌ノ所少ク虫蝕ヲ見ルノミ

芋苗移植

芋ノ早作リハ春寒ノ侵害及ヒ其他ノ障礙ニ由テ腐傷損敗
 ニ歸スルモノ甚多キヲ憂ヒ徳島縣勸業世話方高橋喜平太
 ナルモノ近年苗代ヲ設ケテ芋苗ヲ育ツルノ方法ヲ發明シ
 其利ヲ得ルニ至レリト其法ハ先ツ苗代地ヲ定メ牛馬糞ヲ
 積肥トナシテ之レニ施シ更ニ腐熟ノ土肥ヲ其上ニ積ヨ之
 ニ種芋ヲ植ヘ付ケ其後二十余日ヲ經テ其芽ノ長スルヲ凡
 四五寸ニ及ハハ之ヲ掘取テ本作地ニ移植スルナリ夫如斯
 スルキハ第一ニハ七月ノ早燥ニ枯瘦ヲ招クノ患ナク第二
 ニハ種子ノ不長ナルカ爲メニ損敗ヲ來スノ憂ナク第三ニ

ハ春寒ノ侵害ヲ被リ發芽ヲ妨ラル、ノ弊ナク第四ハ生育宜シキヲ得テ収穫多キヲ加ル等其利益少カラズト云フ農家宜ク寶顧スルニ至ラントヲ希望ス

麥稟打紐ノ景況 (九月六日附在紐育領事館報告)

我カ國麥類打紐ノ米國ニ輸入スルハ近年ノ事ニシテ今日ハ頗ル聲價ヲ得忽チ支那製品ノ上ニ凌駕シ漸次増殖ノ勢アリ然ルニ我カ商業社會ノ實際ヲ見ルニ安ニ競賣チナスヨリ供給大ニ需用ノ度ニ超過シ爲ニ價格低落シ終ニ損害ヲ招クト擲カラス是レ畢竟需要場ノ景況ヲ評ニセサルニ由ルナリ因リテ茲ニ是等商業者ノ注意ヲ促サンカタメ實際ノ景況報告ス

我カ麥稟製造者ノ最肝要トスル所ハ第一需要場ノ實況ヲ知り其ノ嗜好ノ如何ヲ審ニスルニアリ第二充分精製良好ノ品ヲ製スルニ在リ夫レ需用場ノ實況ヲ知ラサレハ其ノ用フルノ度如何及何等ノ品等ヲ使用スル最多キカヲ知ル能ハス之ヲ知リテ然ル後其ノ品ヲ精製シ需要ニ應シテ漸次輸入スルニ至ラハ我ニ於テ市場ノ商權ヲ占ムルノ勢ニ至ルハ蓋難カラサルヲ信ス且當國ニ於テ此ノ麥稟ノ商勢ヲ察スルニ元來支那製品ヲ輸入シ支那麥稟ハ當國ヲ以テ大得意場トナシ、カ我カ國ノ製品近年市場ニ入りテ彼ト位置ヲ易エントス是レ我ヨリ競争ヲ開キシモノニシテ彼ト我ト相關争シ共ニ價格ヲ低落スルハ數ノ免ル、能ハサルモノナリ故ニ我ニ於テハ一勇氣ヲ鼓シ彼ニ勝ツノ策ヲ

施サ、ルヘカラス其策他ナシ十分精良ノ品ヲ製シ相當ノ價格ヲ以テ售賣スルニアルノミ而シテ此ノ策ヲ施スハ商業者一致團結シテ功ヲ遠大ニ期セサルヘカラス若シ然ラサレハ我カ此商業ハ忽チ衰退シ目下東京ニ設立セル大日本麥藥商會ノ事業ノ如キモ好果ヲ得ルヲ甚難カラソナテ恐ル偏ニ望ム我カ麥藥商業者ノ等々需四場ノ景況ヲ審ニシテ十分精良ノ品ヲ製出シ彼ノ目前ノ利ニ馳スルノ弊ヲ戒メ一大團結ヲナシテ以テ次第ニ我カ輸出ヲ増殖スルニ意ヲ注カソナテ

當米國ミシガレ洲ニ於テ製造スル所ノ麥藥打紐アリ「マキノ」ト名ク是ハ米國麥藥打紐製造ノ發端ニシテ爾來類似ノモノ種々現出シタレトモ何レモ同様帽子製造ノ目的ニ

使用スルニ外ナラス而シテ「マキノ」打紐ヲ以テ他ニ勝レリトスルモノハ其ノ織方頗ル平滑ニシテ光澤アリ且久シク汚レサルノ利益アルニ由ル然ルニ或人其ノ古帽數多ヲ集メ各其ノ代價ヲ記載シ之ヲ見本トシテ日本及支那ニ送リシニ同地ニテハ見本ヨリ却テ廉價ニ新製品ヲ得ラルヘキヲ知リ即チ其ノ輸入ヲ企テシニ果シテ得ル所尠カラサリキ是前日停業シタル彼ノ共同麥藥會社ナリ日本雜貨ノ商況不景氣ヲ呈セシ以來之ニ從事スルモノハ皆新奇ノ事業ヲ發見シテ利益ヲ收得セント希フノ際ナリシカ故ニ今其ノ利アルヲ見テ之ニ着手シタルモノ多ク爲ニ供給忽チ需要ニ過キテ市場ニ溢ル、ニ至レリ蓋此弊タルヤ人ノ業ヲ利アリト認メ毫モ需要供給ノ程度ニ注目セズ妄ニ之ニ着

手スルモノ多キヨリ生スル自然ノ結果ナリ是ヲ以テ此ノ業ヲ專務トスルモノ、外ハ暫ク此ノ過度ノ供給品減少シテ其ノ價格ヲ恢復スル迄、此ノ業ニ着手スルヲ得策ニ非サルヘシ

支那製打紐ハ日本製ニ比シ廉價ニシテ外觀モ之ニ劣ルト雖通常一般ノ人ニテハ其ノ區別ヲナスヲ甚タ難シ然レモ日本製ノ極上ハ幅八分ノ七「インチ」モノニシテ最良ノ麥莖ヲ以テ缺點ナク充分平滑ニ織リシモノナレハ壹把ノ價壹弗ナリ目今「アール、アイザツクス、エント、プロス」會社ニ於テ日本ノ見本壹把ノ價七拾五仙ノモノ三種ヲ許多所有スレトモ其ノ品質ノ善良ナルニ拘フス買者ニ於テハ五拾五仙ヲ以テ最高價トス是レ畢竟供給過剩ト時季ノ後レタル

トノ致ス所ナリ又通常支那製各種ノ價ハ貳拾五仙ナリ茲ニ格別注意セサル可カラサルモノアリ即包裝ノ事是レナリ日本ノ箱ハ長サ貳尺幅貳尺深三尺容積拾貳尺立方ノモノニシテ日本紐凡百把ヲ入ル然ルニ支那ノ俵ハ凡日本ノ箱ト同積ノモノニシテ同一ノ大サノ支那紐ヲ容テ、凡五割ノ多額ナリ而シテ頗ル注意シテ包裝スルカ故ニ當地來着ノ上少シモ損所ヲ見ス是ヲ以テ日本ニ於テモ支那同様ニ包裝スルヲ得策ナリトスルナリ目下當國市場ニ於テ賣買スル價格ヲ舉ケテ參考ニ供ス

第壹号	米國産	六拾壹弗三拾五仙
第貳号	日本産	同五拾五仙
第参号	同	同四拾五仙

(同斷ニ付
全貳拾五仙)

(右官報抜萃)

郵便物及船舶ノ盛衰
 郵便物數ノ増減ハ社會百般事業ノ盛衰及人智ノ進度ニ因
 スヘシ故ニ其増減ハ事業ノ盛衰人智ノ進度如何ノ一斑ヲ
 徴スルニ足ルモノアラシカ近來社會百般ノ事業ハ頗ル不
 振農ニ工ニ商ニ各困弊名狀スヘカラス依テ郵便物數ノ減
 却スルモ亦免レサル所ナラシテ而シテ明治十五十六兩年ノ郵
 便物數ヲ比較シ其増減ヲ細別シテ其目ヲ舉レハ差立配達

書狀金子入書狀爲換金切手封皮等ノ賣下金高ハ減少シ無
 稅郵便新聞雜誌書籍見本到達留置書狀ノ員數及貯金等ハ
 増加セリ之レ事業ノ衰頽ト人智ノ進度ニ係ルモノトス又
 船舶ニ於テハ日本形船ハ減却シ西洋形船ハ増加ス蓋日本
 形船ノ構造軟弱コシテ風濤激浪ノ爲メニ最危險ナルヲ覺
 知シ漸次西洋形船ニ改良スルモノナラン由是觀之事業ノ
 衰微ニ依テ幾何ノ減少ヲ見ルト雖モ人智ノ進歩ニ依テ又
 幾分ノ増加ヲ致スモノアリ是以世態變遷ノ一斑ヲ徵スル
 ニ足ルヘシ茲ニ明治十五十六兩年間郵便物數及船舶統計
 比較増減表ヲ掲グル如左

明治十六年尾張國各局郵便取扱員數種別比較表

件名	十五年		十六年		減增	分
	件	強	件	強		
差立書狀	一二五、六五五		二二〇八、五四一		四八、〇二四	三分強
全書留	四五、一七五		四二、二八八		二、九八七	八分強
全無稅	六六、七三六		八五、六七〇		一八、九三三	二割八分強
全新聞及雜誌	二二〇、八六九		三五九、四六一		一四八、五九二	七割強
全書籍見本	一三、五七九		一一〇、七〇七		四七、一七八	六割四分強
全葉書	八八三、〇〇九		七八四、六〇八		九八、四〇一	一割二分強
全金子入	一、〇三九		一、三三四		二九五	二割八分強
配達書狀市内	二〇三三、一九二		一二七六、一二四		七四七、〇六八	五分強
全市外	五二九、三六五		三〇九、四二四		二一九、九四一	七割一分強

全書留書狀市内	三七、四一七		六八、四九八		二二、〇八一	八割二分強
全市外	四、六二〇		二九、一三六		二四、五二一	五倍三割強
全別配達	一、一七七		五六五		六二二	一倍〇八分強
全別仕立	四一八		一		四一七	四百十七倍
全自局到達留置	五二、六十三		六八、一〇二		一五、四〇九	二割八分強
為換振出高	二二六、五〇七	五〇一	二二四、三七五	五八六	二、一三二	九厘
全拂渡高	二七八、六八六	五六九	二二九、二五四	六一六	四九、四三二	二割一分強
貯金預高	一五、八九四	一一九	五〇、四三一	八八〇	三四、五三七	二倍一割七分強
全拂戻高	一〇、三七七	〇八二	一一、一五二	五八八	一〇、八二二	二倍〇四分強
郵便手賣下代	二八、六七八	七七五	二七、四一三	〇七五	一、二六五	四分強
葉書賣下代	八、三三二	二二五	八、九〇〇	八三八	六八五	八分強

明治十六年船舶員數比較表

總計	西 洋 形						件 名 年 度	減 增
	帆 船		風 船		氣 船			
噸 數	船 數	噸 數	船 數	噸 數	船 數	噸 數	船 數	
二、二七五	二七	二、〇九六	二一	一〇二	二	一七九	六	十五年
三、二七九	二九	二、七六七	二四	二八〇	四	五一六	五	十六年
一、〇〇四	二	六六七	三	一七八	二	三三七	一	

九十七

全拂戻高	四、〇二六	九四三	三、〇一五	六〇五	一、〇一一	三三九	二割五分強
郵便切手賣下代	一、七六九	〇二五	九、二二六	四一五	二、五四三	六一〇	二割一分強
葉書賣下代	二、三四七	五二〇	二、六二七	四九三	二七九	九七三	一割一分強
角形封皮賣下代	八	二二六	一一〇	二六	八	二六	九割九分強
長形封皮賣下代	三三三	一七二	二一	七四八	二二	四三四	三割四分強

九十六

自明治十四年愛知縣下公立銀行利息比較表
至全十七年上半年

銀行名	十四年		十五年		十七年		十七年上半年	
	平均利息	最高利息	平均利息	最高利息	平均利息	最高利息	平均利息	最高利息
第八國立銀行	一三〇	一八〇	一三〇	一八〇	一三〇	一八〇	一三〇	一八〇
第十一國立銀行	一三〇	一八〇	一三〇	一八〇	一三〇	一八〇	一三〇	一八〇
第百三拾四國立銀行	一八九	一九六	一七二	一九〇	一五五	一九〇	九五	一四〇
第百三拾六國立銀行	一五〇	二〇〇	一四〇	二〇〇	一三〇	二〇〇	一〇	八〇
伊藤銀行	一八〇	二〇〇	一五〇	二〇〇	一三〇	二〇〇	九五	一三〇
一宮銀行	一六五	二四〇	一六〇	二〇〇	一三〇	二〇〇	一六	二〇
名古屋銀行			一三五	一五〇	一〇八	一三〇	九三	一〇〇

總計	形本日							
	以上石	五拾石	以上石	百石	以上石	五百石	以上石	千石
船數	船數	船數	船數	船數	船數	船數	船數	船數
二一四、三三四	九四五	二七、七六五	四〇六	八一、二二八	四一一	七八、五〇〇	一〇三	二六、八四一
一九四、〇〇三	八四五	二六、一三〇	三八二	七七、五五六	三八五	六九、八九九	五九	二〇、四一八
二〇、三三一	一〇〇	一、六三五	二四	三、六七二	二六	八、六〇五	四四	六、四二三

三井銀行	1,133	1,621	1,333	1,621	1,335	1,621	1,335	1,621	1,335	1,621
半田銀行	1,748	2,016	1,748	2,016	1,748	2,016	1,748	2,016	1,748	2,016
寶飯銀行										
第八國立銀行名古屋支店	1,588	1,800	1,588	1,800	1,588	1,800	1,588	1,800	1,588	1,800
第百三十六名古屋支店	1,400	1,600	1,400	1,600	1,400	1,600	1,400	1,600	1,400	1,600
國立銀行	1,910	2,195	1,910	2,195	1,910	2,195	1,910	2,195	1,910	2,195
平均	1,480	1,715	1,480	1,715	1,480	1,715	1,480	1,715	1,480	1,715

表中名古屋銀行ハ十五年七月ノ開業ニ付全年ハ下半年ヲ調査セシモノナリ寶飯銀行ハ十六年ノ創業ナリ第百三十拾國立銀行名古屋支店ハ十六年限リ廢業セシモノナリ

明治十七年名古屋區金融ノ景況

金額	年		利		日		歩	
	公債証券	不動產無抵當	公債証券	不動產無抵當	公債証券	不動產無抵當	公債証券	不動產無抵當
百圓以下	1,000	1,100	1,000	1,100	1,000	1,100	1,000	1,100
百圓以上	900	1,100	900	1,100	900	1,100	900	1,100
千圓未滿五	800	1,000	800	1,000	800	1,000	800	1,000
千圓以上	800	1,000	800	1,000	800	1,000	800	1,000
五圓未滿	800	1,000	800	1,000	800	1,000	800	1,000
五圓以上	750	900	750	900	750	900	750	900
一萬圓以上	750	900	750	900	750	900	750	900

農商工業共都テ萎靡不振金融最モ緩漫ノ狀ナリ

明治十六年 自七月 至十二月 名古屋區物價表

品名	數	稱	七	八	九	十	十一	十二	平均
米	壹石	六四	六六	六夕	七五六	六夕	五三五	五夕	五四四
小麥	壹石	三三	三五	三	四四八	三	三八九	四夕	一六七
線綿	百斤	三三	三五七	二二	六二一	一	三九〇	三	三三三
茶	壹斤	二五	六〇〇	二	二〇〇	二	〇〇〇	一	三三三
油	壹石	三三	三三三	二二	六二二	二	七四〇	一	四〇〇
清酒	壹石	一〇	五〇〇	十	〇五〇	一	〇〇〇	九	二〇〇
大豆	壹石	五	八八〇	六	二五〇	五	五五五	五	〇〇〇
砂糖	百斤	二	四三〇	二	六六	八	八九〇	八	四二〇
煙草	壹斤	二	五〇〇	二	〇〇〇	七	五〇〇	六	五〇〇

品名	數	稱	七	八	九	十	十一	十二	平均
稚蓍	壹斤	七三	七八〇	九〇	〇〇〇	七〇	〇〇〇	六〇	〇〇〇
村木	拾貫目	一	二五〇	一	三〇〇	一	三〇〇	一	三五〇
炭	拾貫目	五〇〇	五〇〇	五〇	五〇〇	五〇〇	四〇〇	三三三	四二八
薪	拾貫目	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
雞卵	千個	一〇	四〇〇	一三	五〇〇	一三	五〇〇	一三	三〇〇
麻	壹貫目	一	二九〇	一	二九〇	一	一七〇	一	一七〇
生糸	百斤	四八〇	〇〇〇	四二五	〇〇〇	四二	〇〇〇	四一〇	〇〇〇
醬油	壹石	一一	一一一	一〇	七五三	一〇	二〇五	九	〇九一
鯉節	壹貫目	一	五〇〇	一	四〇〇	一	五〇〇	一	五〇〇
鰯	日斤	一一	八〇〇	二〇	〇〇〇	一七	六〇〇	一	〇〇〇
昆布	日斤	八	六四〇	二	五〇〇	二	五〇〇	二	〇〇〇

干	鱒	銅	鐵	花崗石	鉛	硫黃	洋綿糸	生金巾	縮緬吳呂	洋砂糖
鱒拾貫目	壹石	白斤	拾貫目	一切	百斤	ク	三番ノ	七斤	一碼	百斤
二五〇〇	二三八	三〇〇〇	一四〇〇	五五	八二〇〇	三〇八〇	二二〇〇	一七〇〇	二〇〇〇	六六七〇
二二二〇	二二八	二八〇〇	三〇〇〇	五〇〇	九〇〇	一〇八〇	一〇〇〇	三三〇〇	二〇〇〇	四〇〇〇
一八二〇	九七	二〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇	〇〇〇	三三三〇	一〇七〇	二五五〇	一九五	七二〇〇
一五六〇	八八〇	三〇〇〇	三〇〇〇	五〇〇	七〇〇	四〇〇〇	一〇四〇	二〇〇〇	一七二	七二〇
一五六〇	八三三	三〇〇〇	三〇〇〇	五〇〇	六五〇〇	三五〇〇	九六〇〇	一八五〇	一七二	七二〇
一四二八	七八二	二〇〇〇	二〇〇〇	五〇〇	四〇〇〇	三五〇	九八〇〇	一九五〇	一七一	一六〇
一八四八	〇一四	五〇〇	三〇〇	五〇八	七一六	二六三	一〇四	二二二	一八九	八九五

石炭油	洋鐵
一拾箱	拾貫目
二二六〇	二五〇〇
二一九〇	二五八〇
二〇五〇	二五〇〇
二〇四〇	二五〇〇
一九五〇	二五〇〇
二一〇〇	二〇〇〇
二一〇〇	二七五〇

例言

表中一斤ハ渾テ百六拾目ニシテ諸物品ハ毎月中旬中等品
 ナ以テ建相場トセシモノナリ

明治十七年自一月至六月名古屋區物價表

品名	數	稱	一	日	二	日	三	月	四	日	五	月	六	月	平均
米	壹	石	三	四	九	五	二	四	夕	一	四	夕	四	夕	五
大麥	壹	石	一	六	六	〇	二	〇	六	九	一	九	八	一	九
小麥	壹	石	三	六	三	六	四	一	六	七	五	四	五	〇	〇

薪	炭	村木	椎茸	煙草	砂糖	大豆	清酒	油	茶	線綿
拾貫目	拾貫目	拾六分板	拾貫目	拾貫目	拾貫目	拾貫目	拾貫目	拾貫目	拾貫目	拾貫目
斤	斤	坪	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤
一六七	三三三	二〇〇	六八〇	六〇〇	八〇〇	四〇八二	七六〇〇	一八〇〇	四〇〇〇	一六〇〇〇
二二〇	三八〇	一三〇〇	六二二	六五〇〇	八〇〇	七六二	六六〇	二八〇〇	二〇〇〇	一七九七七
二二〇	四〇〇	一三〇〇	六五〇	六五〇〇	四二〇	二六三	二〇〇	〇〇〇	八〇〇	一八一
二二〇	三八〇	一三〇〇	四三三	六五〇〇	八〇〇	五〇〇	九〇〇	一九〇〇	二二〇〇	一八〇七七
一六七	三八〇	一三〇〇	五〇〇	六五〇〇	八〇〇	五〇〇	二〇〇	八八八	〇〇〇	一七九七七
一四〇	三六〇	一五〇	四八〇	五〇〇	七二七	〇〇〇	二〇〇	六六七	六〇〇	一八〇七九
一八九	三七二	二五八	五〇六	四一七	〇八二	八五一	一一〇	〇〇六	〇六七	一七一六

鐵	銅	鹽	干	昆	鷓	鯉	醬	生	麻	鷄
拾貫目	自斤	壹石	干	布	鷓	節	油	糸	壹貫目	卵
斤	斤	石	斤	斤	斤	斤	石	斤	斤	個
二五〇〇	〇〇〇	六〇二	一四九〇	一五〇〇	八〇〇	〇〇〇	四〇四	四二五	一〇〇〇	一〇〇〇
二七〇〇	五〇〇	八三三	一七五〇	八〇〇	四三〇	〇〇〇	四〇七	五〇〇	一〇〇〇	九二五〇
二二〇〇	五〇〇	八九三	一九二〇	七〇〇	三〇〇	〇五〇	四〇七	〇〇〇	二五〇	六五〇
二二〇〇	五〇〇	一〇四二	八五〇	八〇〇	〇〇〇	二五〇	四〇七	五三〇	二五〇	〇〇〇
一五〇〇	五〇〇	八九三	九六〇	八〇〇	五〇〇	〇〇〇	四〇七	三三五	二五〇	六五〇
五〇〇	五〇〇	八三三	六六〇	六〇〇	八〇〇	六五〇	四〇七	四九八	二〇〇	三八〇
二四〇八	五八三	八四九	一七七一	一七〇〇	一八〇五	九九二	四〇七	五〇六	一七五	八二二

花崗石一切	鉛	硫黃	洋綿糸	生金巾	縮緬吳呂	洋砂糖	石炭油	洋鐵
百斤	百斤	夕	三番十ノ	七斤	一碼	百台斤	一拾箱	拾貫目
五〇〇	五八〇	三〇五〇	九七〇〇〇	九五〇	一七〇	五〇〇〇	二〇四〇	四〇〇〇
五〇〇	六三〇〇	二九八〇	一〇六〇〇〇	〇八〇	一七五	四八五〇	二二五〇	二五〇〇
四七〇	六二〇〇	九五〇	一〇九〇〇〇	二〇〇	一七五	四七〇〇	二二〇〇	二五〇〇
四五〇	六二〇〇	八五〇	一〇三〇〇〇	二二五〇	一七二	四一〇〇	二〇三〇	二五〇〇
四五〇	六二〇〇	七八〇	一〇〇〇〇〇	三〇〇	一六五	三六五〇	二〇二〇	四〇〇〇
四五〇	七〇〇	七五〇	九四〇〇〇	一五〇	一六五	三八〇九	一九八〇	三八〇〇
四七〇	六〇七〇	八九三	一〇一五〇〇	一五五	一七〇	三三三二	〇八七	三二二七

例言
 表中一斤ハ、洋テ百六拾目ニシテ諸物品ハ、毎月中旬中等品
 ヲ以テ建相庭トセシモノナリ

5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

明治十六年米麥雜穀農家每一戸收穫高比例

國名	郡區名	戸數	米		麥		雜穀	
			石位	一戸收穫高	石位	一戸收穫高	石位	一戸收穫高
名古屋區	一、〇〇九	三〇二	一九三	一九三	三〇二	一九三	一九三	
愛知郡	一九、二一〇	七〇、八三四	一六八	一六八	七〇、八三四	一六八	一六八	
東春日井郡	一九、六〇四	六、一四七	五二〇	五二〇	六、一四七	五二〇	五二〇	
西春日井郡	九、八一四	二、八六七	七二七	七二七	二、八六七	七二七	七二七	
丹羽郡	一三、七六一	四、二二八	八八六	八八六	四、二二八	八八六	八八六	
葉栗郡	五、五九九	一、三六四	一九五	一九五	一、三六四	一九五	一九五	
中嶋郡	一八、九四九	一、三六四	一九五	一九五	一、三六四	一九五	一九五	
海東郡	一四、一五七	四、六三三	二四七	二四七	四、六三三	二四七	二四七	
海西郡	六、五二二	七、九三九	八六九	八六九	七、九三九	八六九	八六九	
知多郡	二五、五九六	七、二六〇	一〇四	一〇四	七、二六〇	一〇四	一〇四	
碧海郡	二二、八一〇	一〇、八二七	五九七	五九七	一〇、八二七	五九七	五九七	
幡豆郡	一八、〇一六	一、一五二	八二二	八二二	一、一五二	八二二	八二二	
額田郡	一一、九七三	四、〇五七	三六六	三六六	四、〇五七	三六六	三六六	
西加茂郡	八、三七八	三、九八三	八三九	八三九	三、九八三	八三九	八三九	
東加茂郡	五、四九九	二、一三三	四〇六	四〇六	二、一三三	四〇六	四〇六	
北設樂郡	三、五九八	一、〇二七	九一三	九一三	一、〇二七	九一三	九一三	
南設樂郡	四、〇五六	一、〇二七	九一三	九一三	一、〇二七	九一三	九一三	
寶飯郡	一三、二三七	四、五〇七	七二八	七二八	四、五〇七	七二八	七二八	
渥美郡	一三、四九六	三、六九六	五五二	五五二	三、六九六	五五二	五五二	
八名郡	五、二九六	一、七二七	四二二	四二二	一、七二七	四二二	四二二	
總計	二四〇、五四一	六、二二二	六六二	六六二	六、二二二	六六二	六六二	

曲尺二寸ヲ以テ十石ノ比例線

雜穀

例言

洋炭油	洋砂糖	縮緬吳呂	生金巾
拾貫目	一拾百斤	一碼	七斤
箱	斤	碼	斤
二〇〇〇	二〇〇〇	一七〇	九〇〇
二二五〇	二二五〇	一七五	一〇〇〇
二五〇〇	二五〇〇	一八〇	一一〇〇
二七五〇	二七五〇	一八五	一二〇〇
三〇〇〇	三〇〇〇	一九〇	一三〇〇
三二五〇	三二五〇	一九五	一四〇〇
三五〇〇	三五〇〇	二〇〇	一五〇〇
三七五〇	三七五〇	二〇五	一六〇〇
四〇〇〇	四〇〇〇	二一〇	一七〇〇
四二五〇	四二五〇	二一五	一八〇〇
四五〇〇	四五〇〇	二二〇	一九〇〇
四七五〇	四七五〇	二二五	二〇〇〇
五〇〇〇	五〇〇〇	二三〇	二一〇〇

14
23

東 京 圖 書 館				
			乙 五	新 書 門
冊	號	架	函	類 部

日出版屆

愛知縣藏板

終

